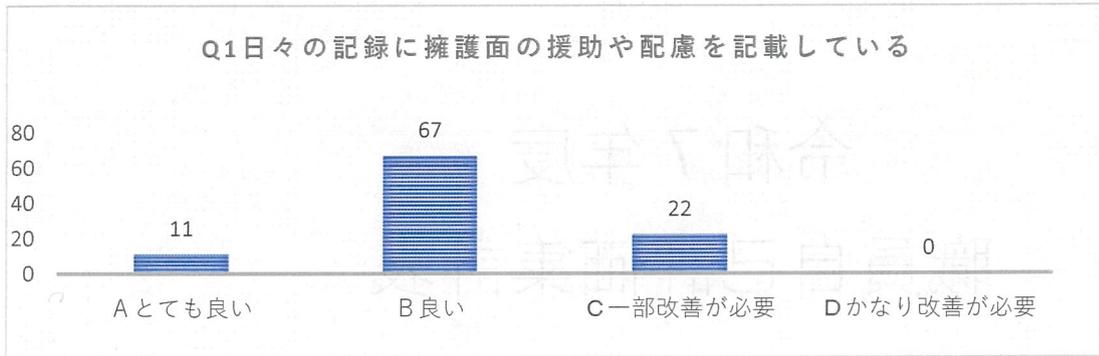


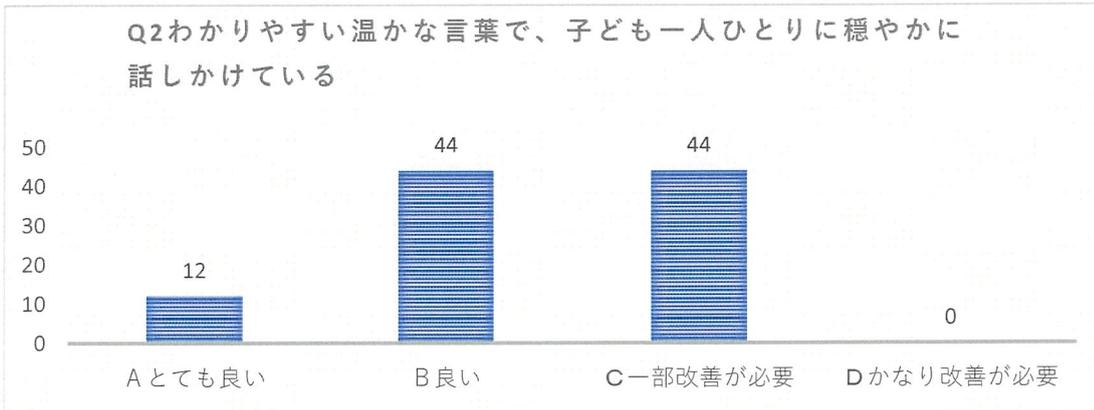
令和7年度
職員自己評価集計表

はねかわ保育所

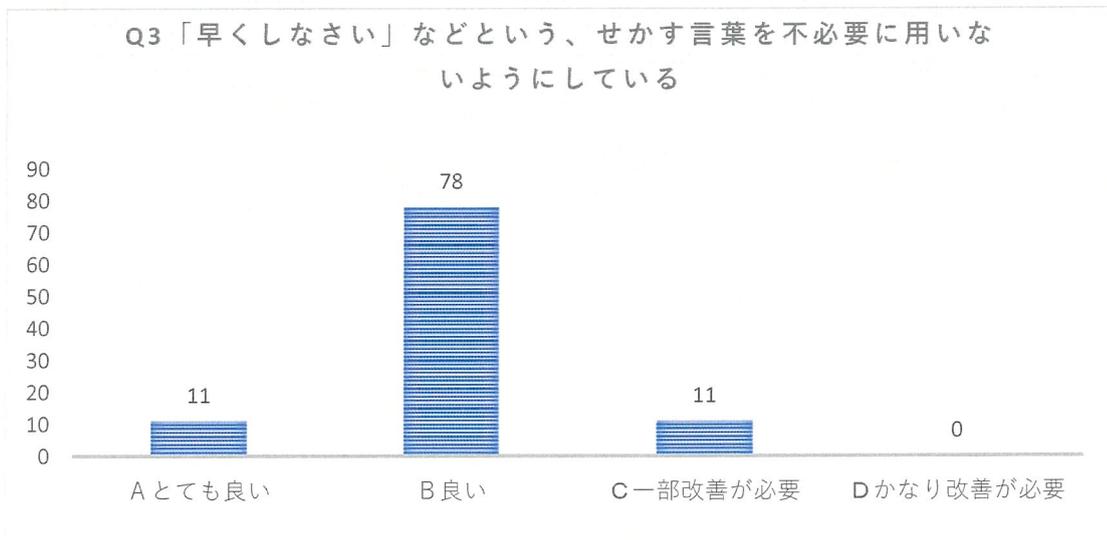
【養 護】



園評価【 B 】

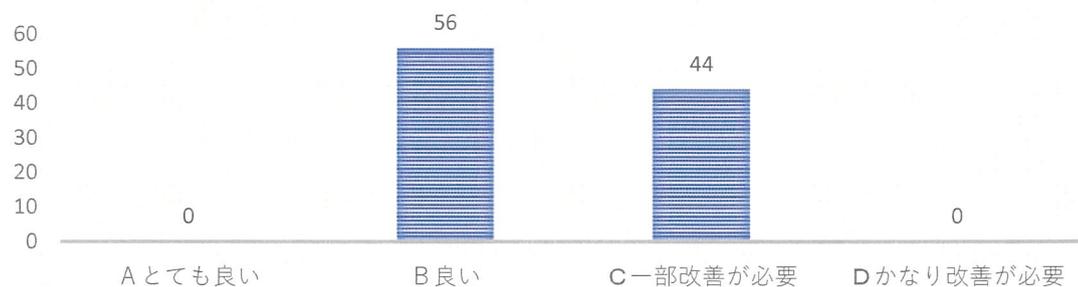


園評価【 C 】



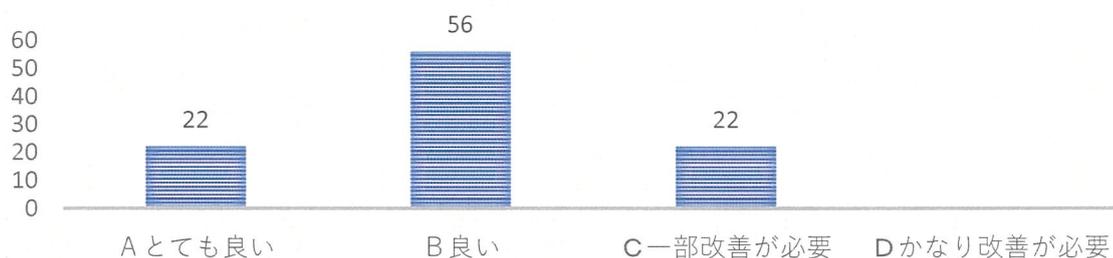
園評価【 B 】

Q4子どもの要求や質問に対して「待ってて」「後で」などと言わずになるべくその場で対応するようにしている



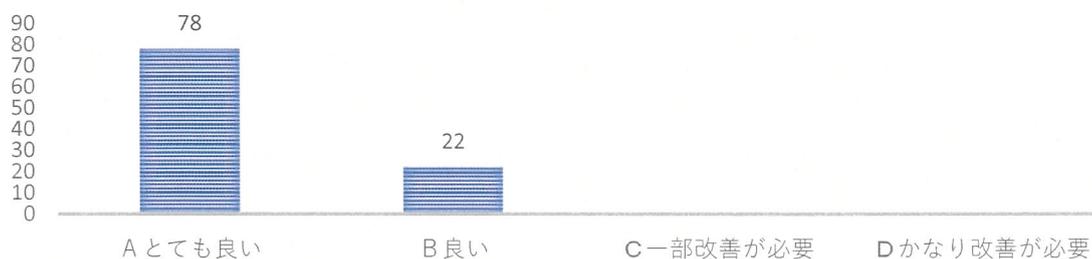
園評価【B】

Q5「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止め対応している

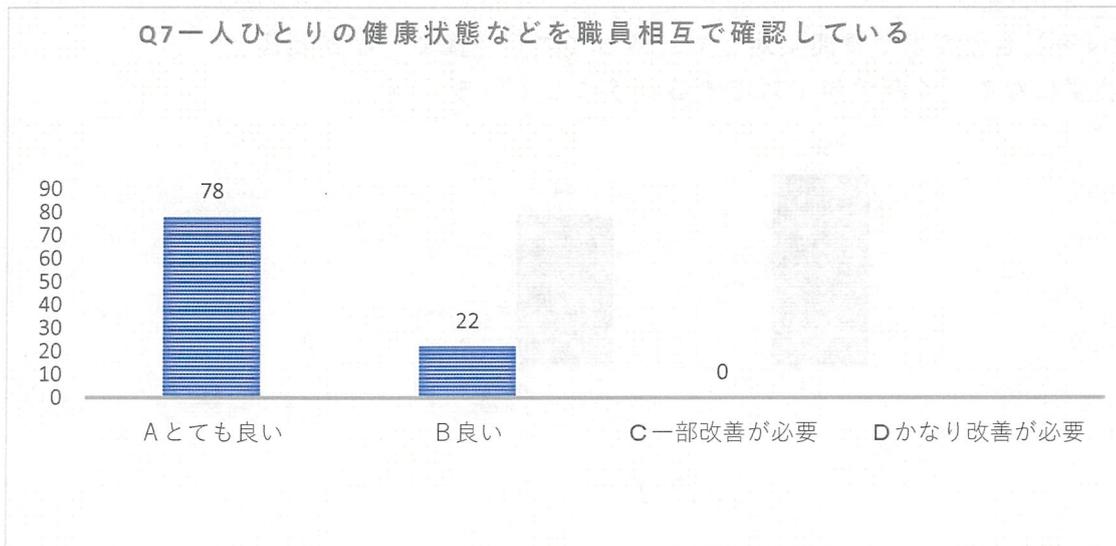


園評価【B】

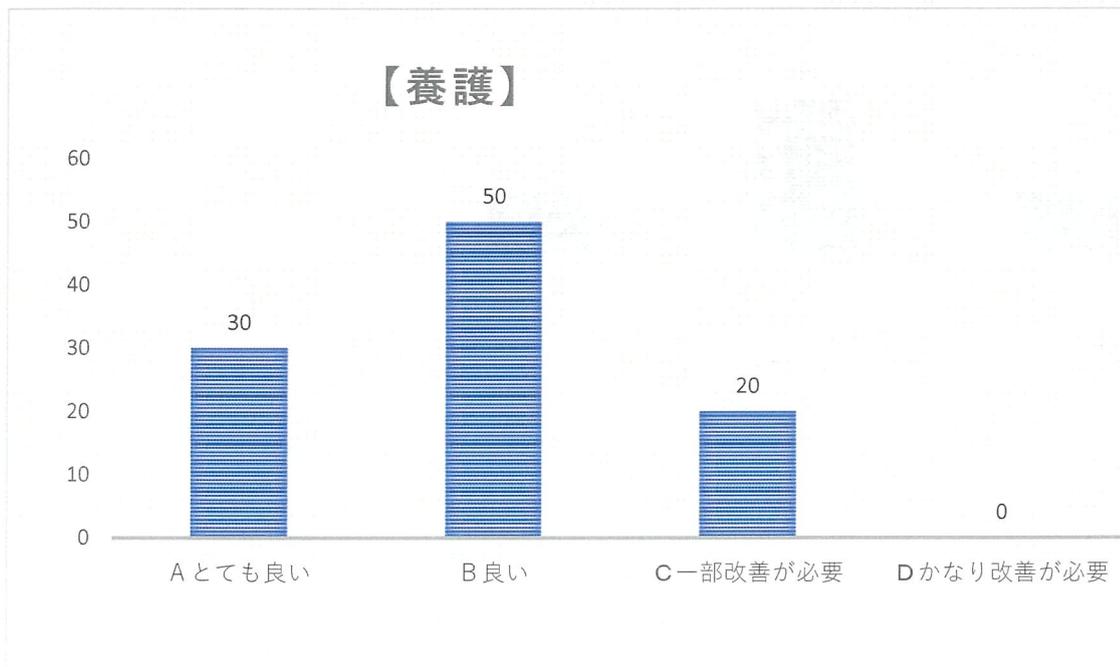
Q6登園時に泣く子どもを放っておいたり、叱ったりしないようにしている



園評価【A】



園評価【A】

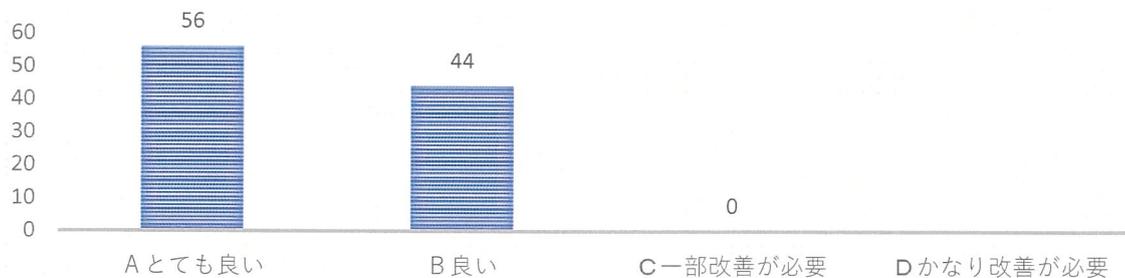


園評価【B】

全体としては、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めて不安な気持ちに寄り添うこと、職員相互で確認しあうこともできている。「子どもに対してせかす言葉を不用意に用いない・登園時に泣く子をほおっておかない」等々については、前年度よりポイントが高くなっている。この点からは保育者自身が自分の保育を見直していることがうかがえる。

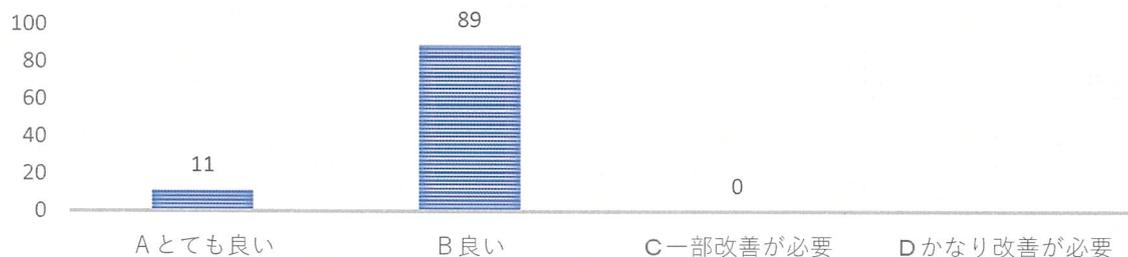
【健康】

Q8おもらしをしたとき、優しく対応し子どもの心を傷つけないよう配慮している



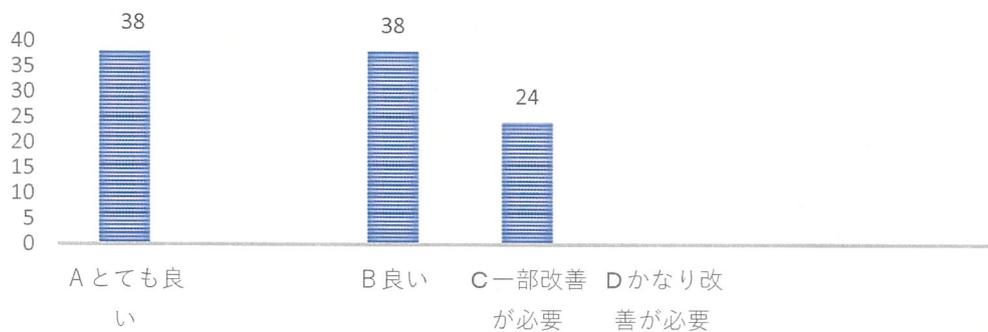
園評価【A】

Q9衣類の着脱に際して自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている



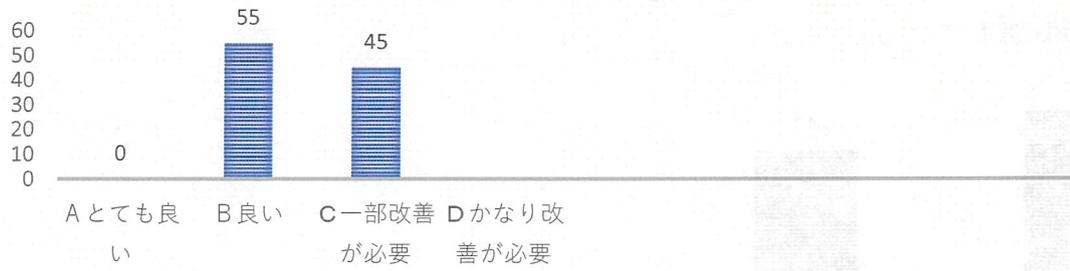
園評価【B】

Q10子どもが自ら体を十分に動かして遊べるように工夫している



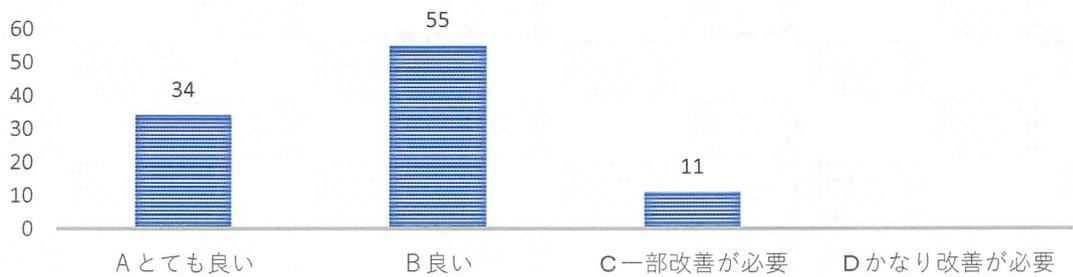
園評価【A】

Q11 冒険心や挑戦しようとする気持ちを大切にするなど、生き生きとした活動が展開できるように配慮している



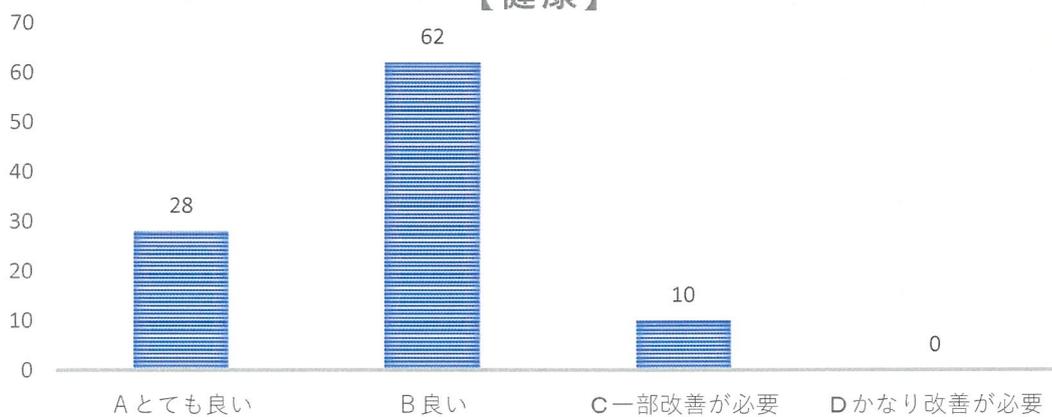
園評価【B】

Q12 基本的な生活習慣や態度を身に着けることの大切さを理解し、適切な行動がとれるように配慮している



園評価【B】

【健康】



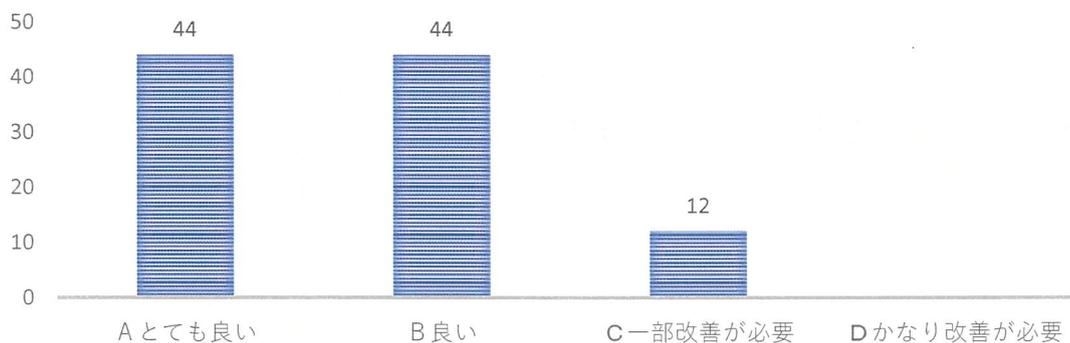
園評価【B】

健康に過ごすために、保育所で十分に体を動かすことや、生活習慣を身につけ日々快適に過ごすことができるよう工夫している。

「熊」対策等で戸外活動が十分にできない状況がありながらも、園庭等やまた地域の方々の協力をいただきながら活動を工夫して、子どもが「自分でやってみたい」と思えるような保育をしていきたい。そのためにも、保育者もゆとりをもって接していくよう心がけている。

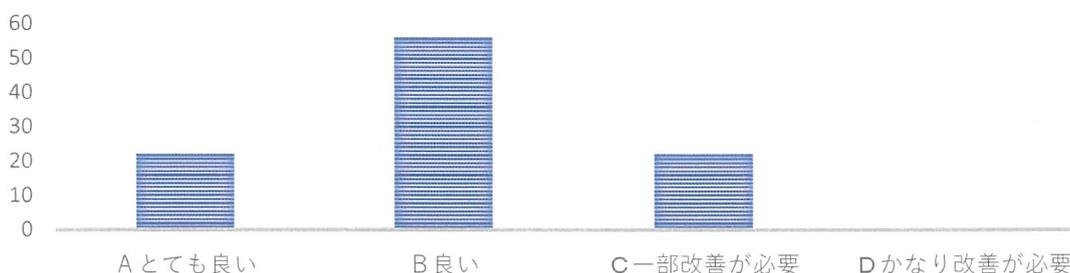
【人間関係】

Q13 順番を守るなどの社会ルール（決まり）を身につける機会を大切にしている

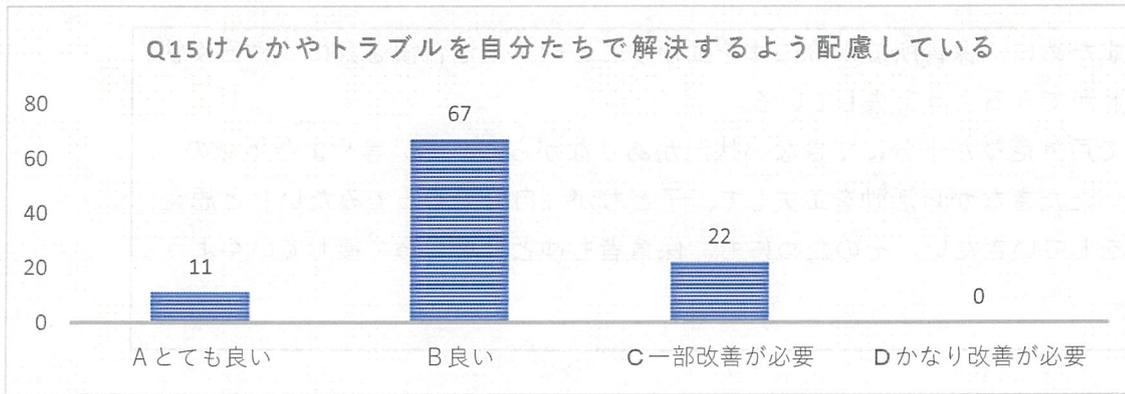


園評価【A】

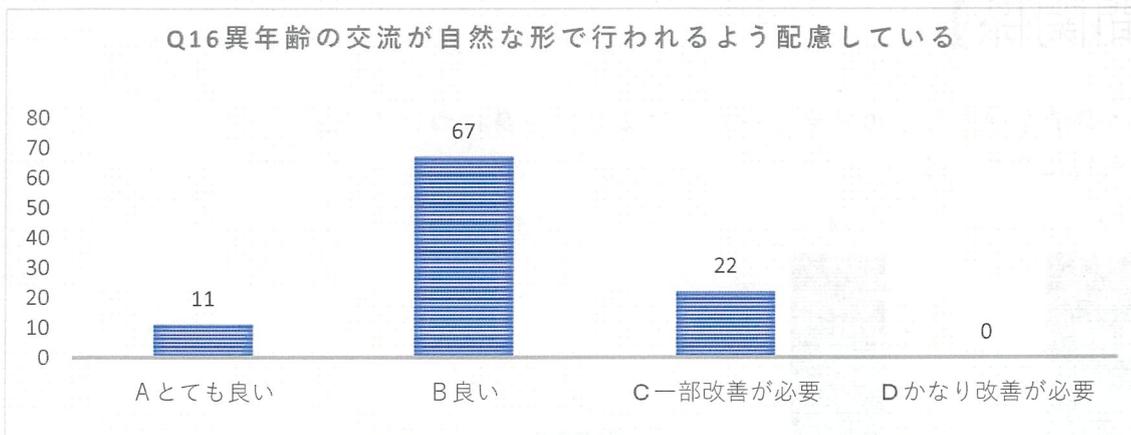
Q14 遊びのルールを子どもたち自ら作っていく過程を大切にしている。



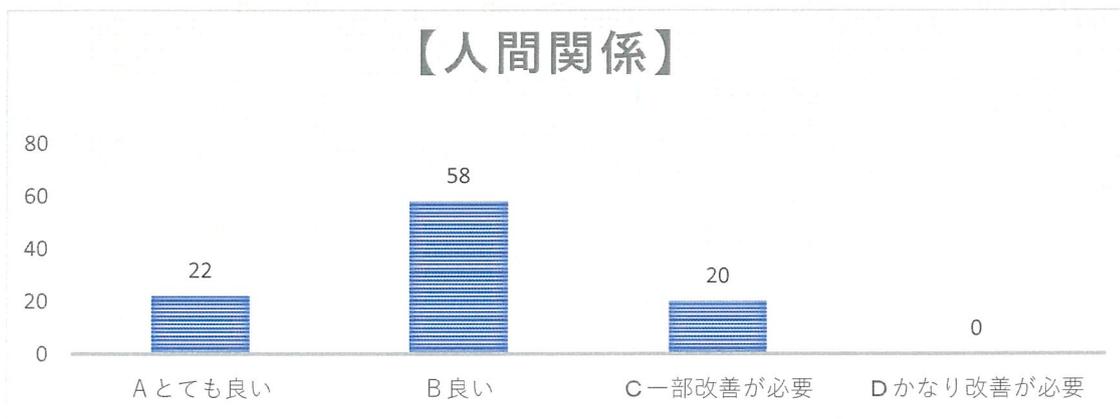
園評価【B】



園評価【B】



園評価【B】

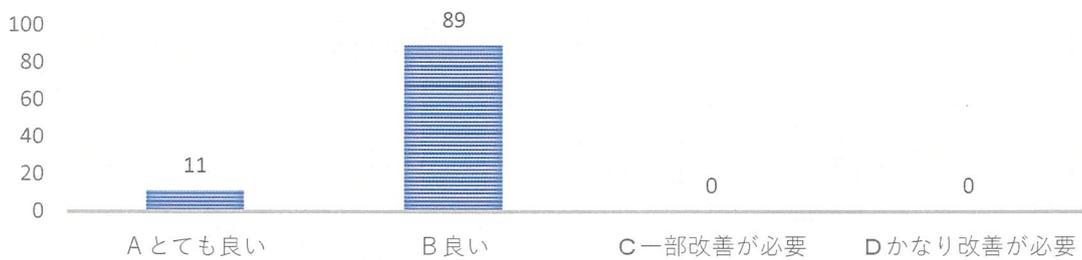


園評価【B】

少人数クラスのため「合同保育」の時間が多い。年上児に憧れを持ち、年下児の世話を、という場面が多くみられた。その中で遊びの輪が広がって異年齢でのあそびが展開していったことは、子ども達にとって良い経験だった。その反面単独クラスで活動する部分が少ない。そのためクラス単位で活動する場面では、担任保育者との関わりをより深め「自分の個性」を発揮できるよう務めている。

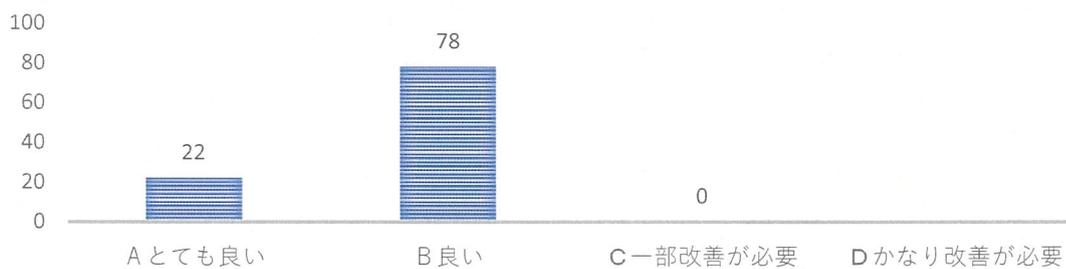
【環境】

Q17自分のもの、他人のもの共同のものの区別に気づけるように機会を提供している

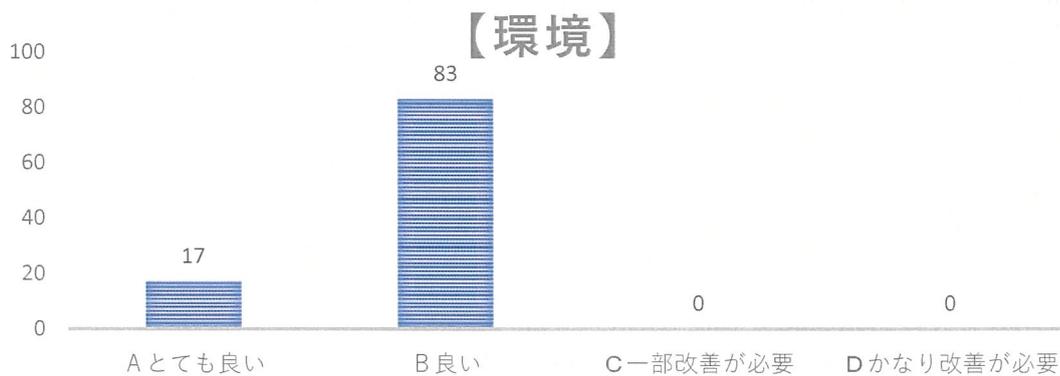


園評価【B】

Q18保育の中で手伝いをするなど、人の役にたつ体験ができるような機会を意図的に取り入れている



園評価【B】

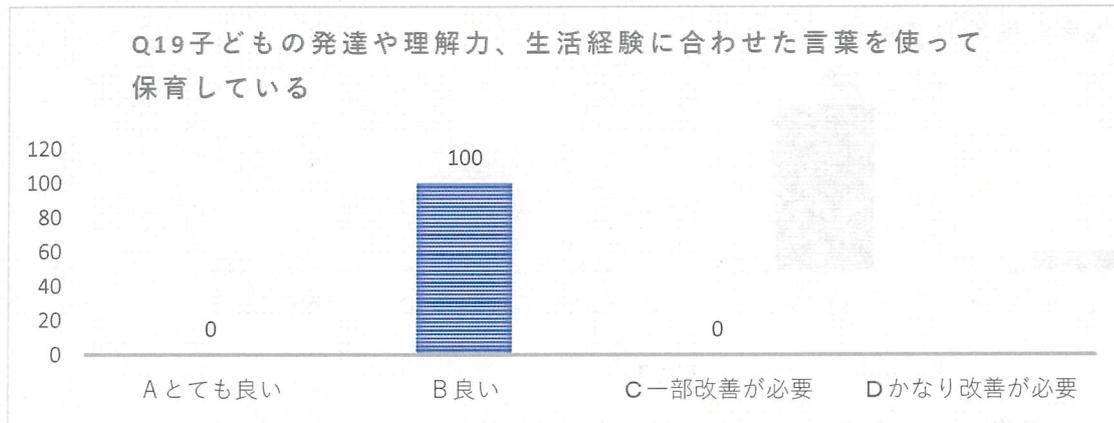


園評価【B】

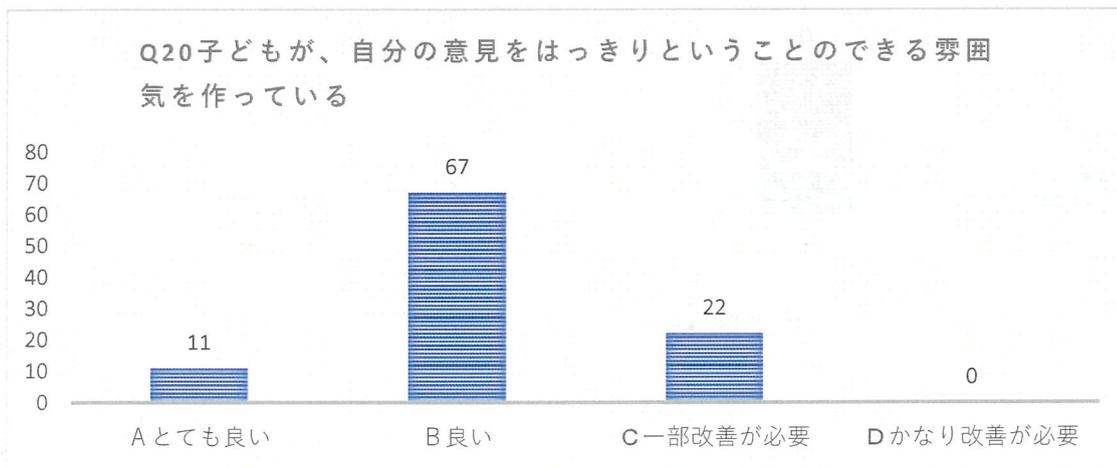
日々の保育の中で、お手伝いや当番活動をすることで、意欲をもって生活しているように感じている。引き続き機会を見ながら「自分のもの」「他人のもの」「みんなのもの」に気づくことができるよう声をかけていく。さらに、「大事に思う・使う」ことが「人・もの」を大切にすることにつながっていくことを、併せて伝えて行くようにしたい。

現在の家族構成の状況では、困難を感じる場面も多いが、根気よく伝えていきたいと考えている。

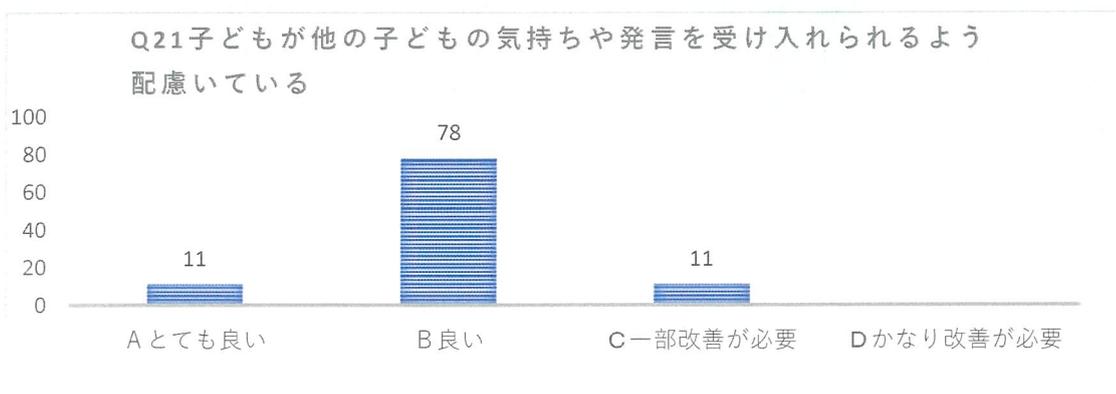
【言葉】



園評価【B】

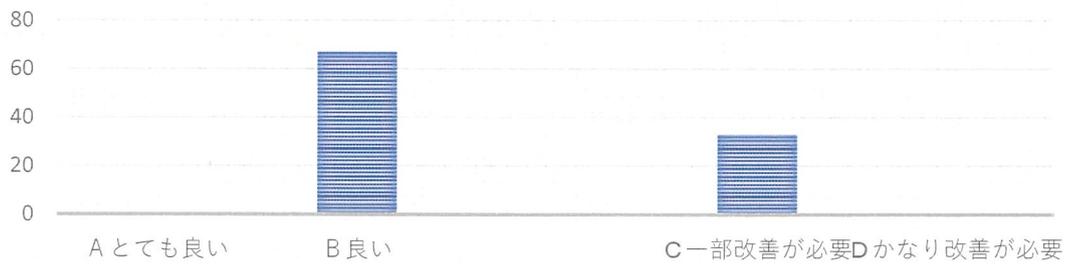


園評価【B】



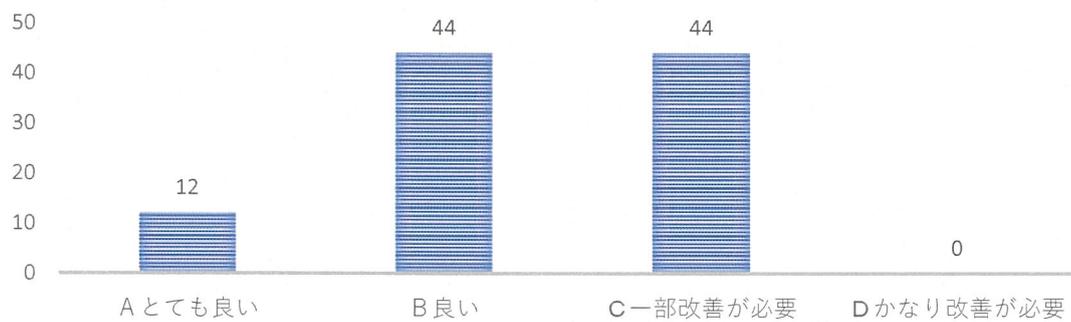
園評価【B】

Q22子どもが人前で話す機会や場面をできるだけ多く作っている



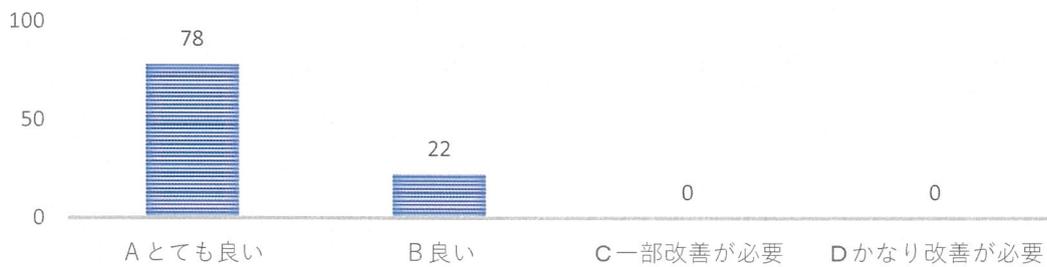
園評価【B】

Q23分かりやすい言葉で子どもに話かけている



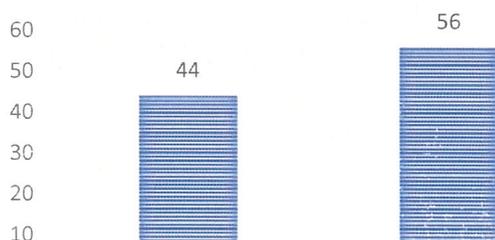
園評価【C】

Q24紙芝居や絵本の読み聞かせの時には、あなた自身もその内容を楽しんでいる。



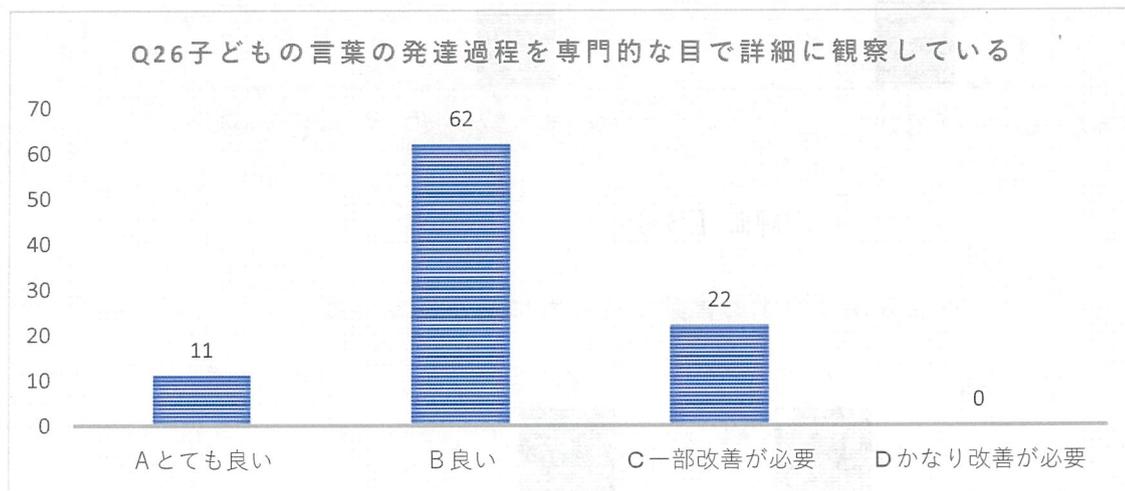
園評価【A】

Q25話の結論がわかっている場合でも、最後までゆっったりと子ども話を聞くよう努めている

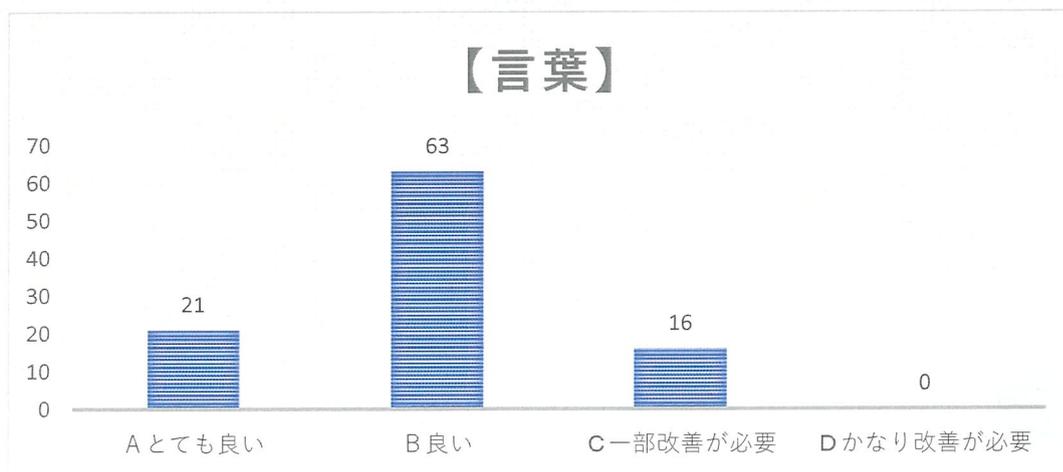




園評価【B】



園評価【B】



園評価【B】

保育所生活の中で絵本との関わりは大変重要である。「読み聞かせ絵本」の選択は、子どもたち自身が選んだり、保育士が読んであげたいものとさまざまである。3歳以上児からは、絵本の貸し出しも行っており、帰りには絵本を選んで持ち帰る姿もある。絵本を通じて様々な「言葉・感情」を体得し、それがいつしか自分のものとなっていく。幼時期は語彙は少なくとも感情は十分に満ちていることを心にとめていく。前年度比較でポイントが上がっていることから職員の意識が高くなってきたと感じている。

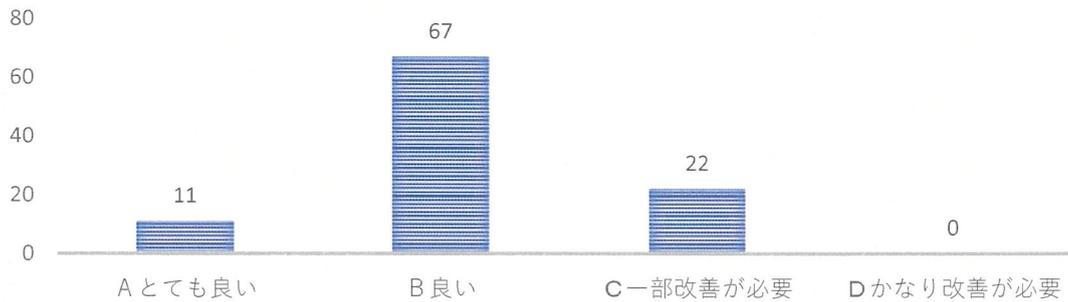
【表 現】

Q27子どもが自由に歌を歌ったり踊ったりできるように配慮している



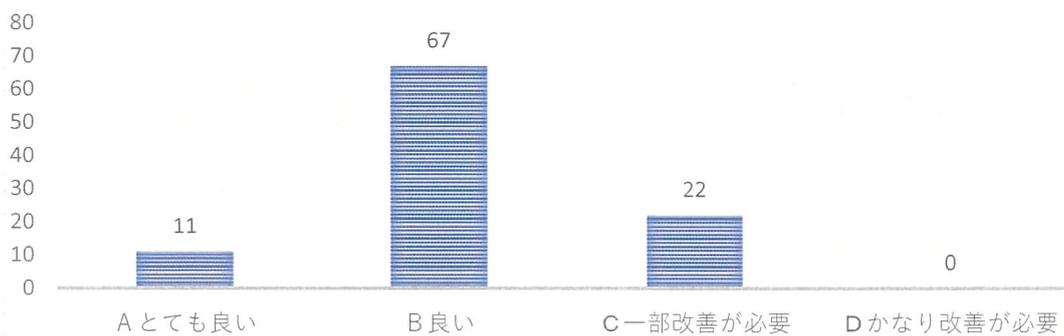
園評価【 B 】

Q28子どものイメージが湧き出るように素材、用具、玩具等の提供を工夫している

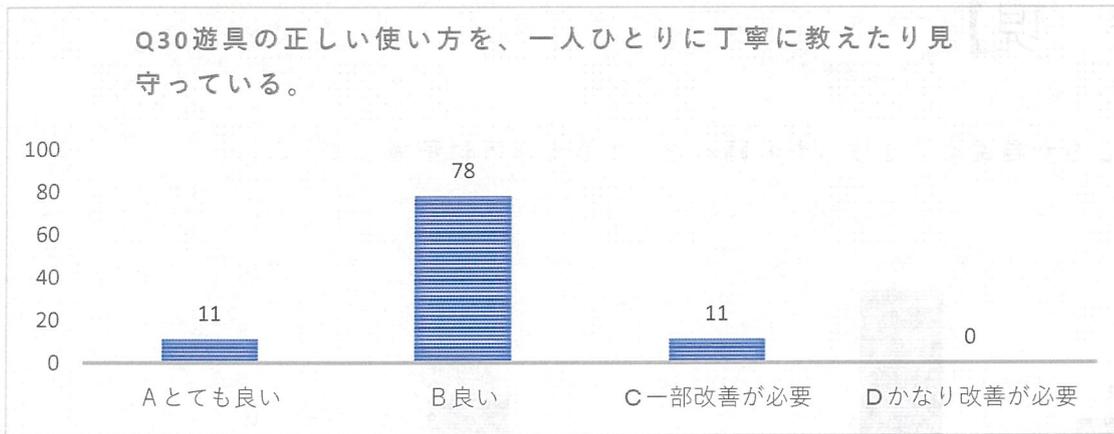


園評価【 B 】

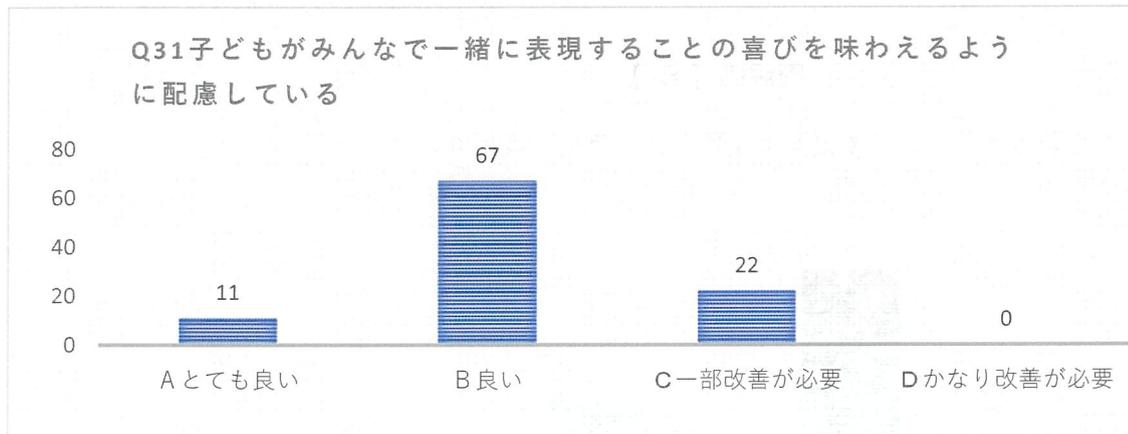
Q29言葉、絵、造形、音など子どもが最も得意な方法で、見たもの感じたものを表現することを大切にしている



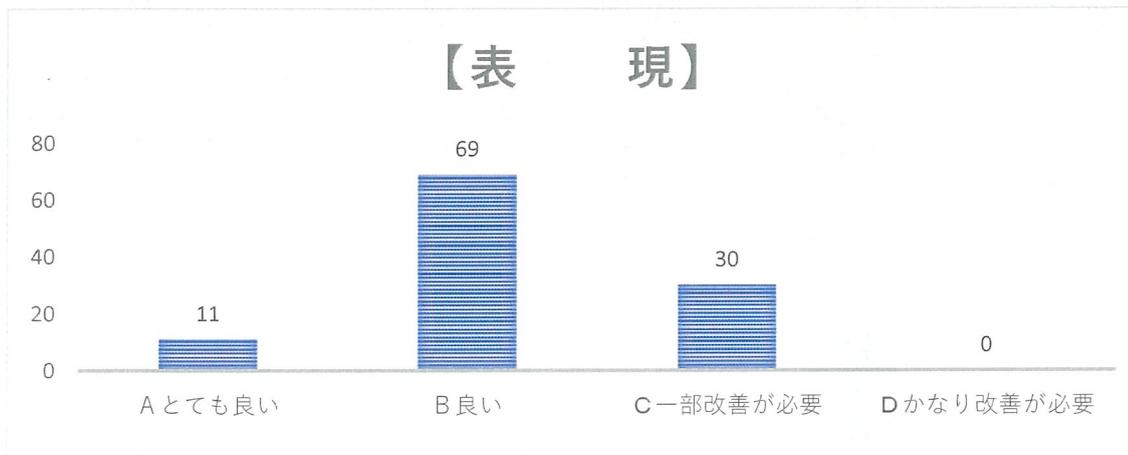
園評価【 B 】



園評価【B】



園評価【B】



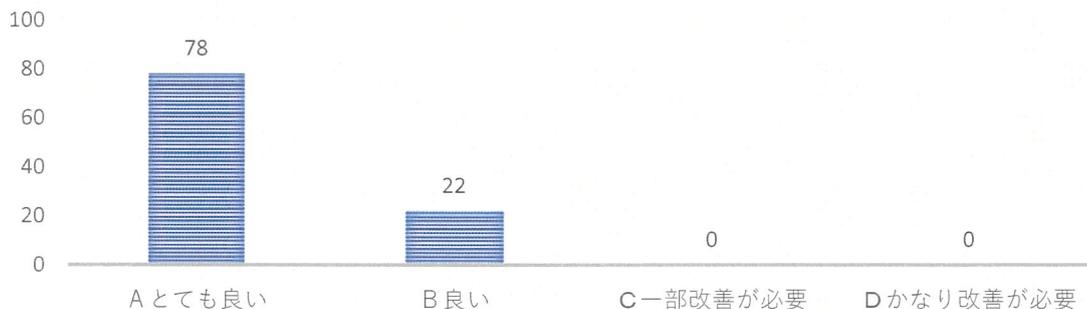
園評価【B】

本年度も地域の行事にも参加させて頂き、羽川剣ばやし等を保育所以外の場での発表することができた。夏まつり、運動会、おゆうぎ会においても各年齢に応じた活動を保護者にも披露できた。

製作についても、行事や四季折々に応じた作品を仕上げ、町内会の展示会や、スーパーの展示会等に出品した。保育士が様々な材料を工夫し、子どもたちも喜んで製作している姿がある。地域内にとどまらず地域外に向けても積極的に参加していきたい。

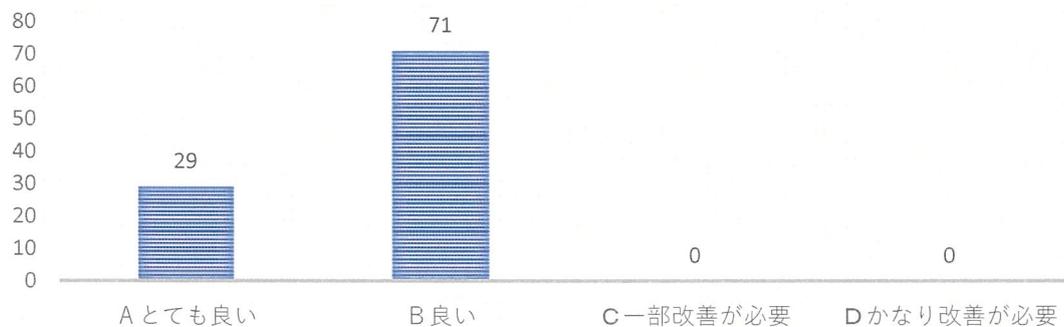
【乳児保育】

Q32抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと授乳している



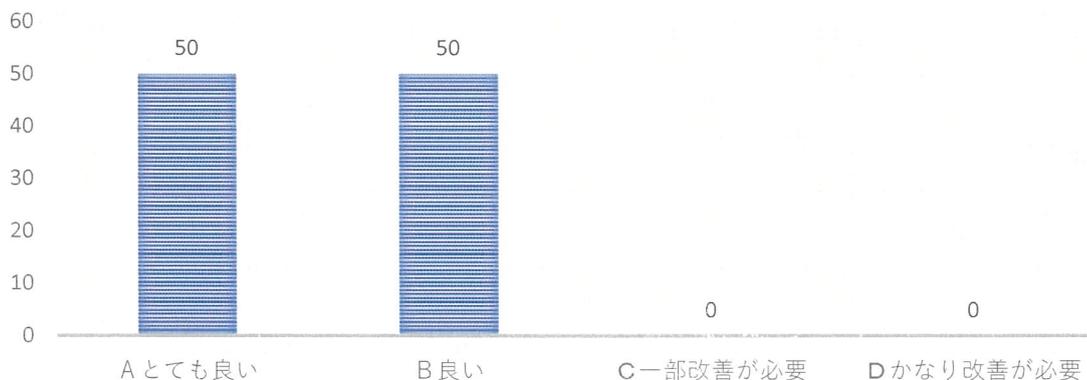
園評価【A】

Q33離乳食については、家庭と連携を取りながら進めている

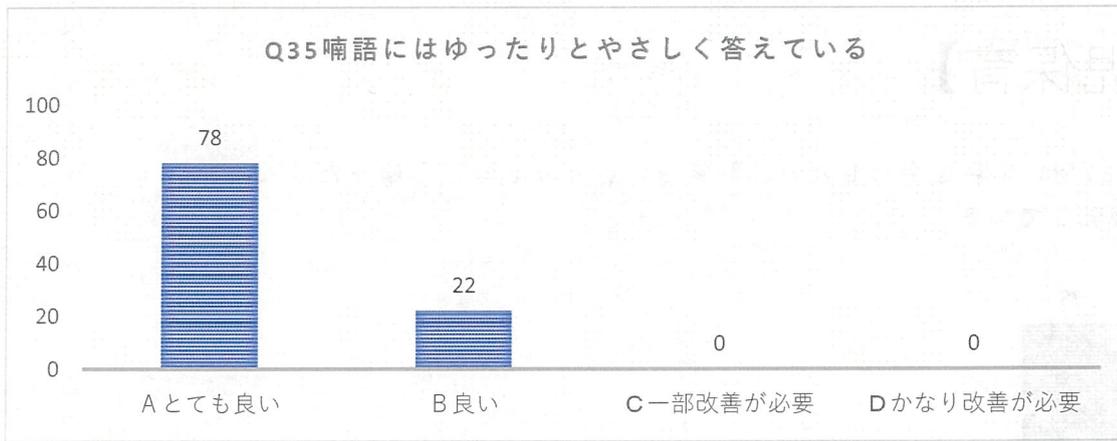


園評価【B】

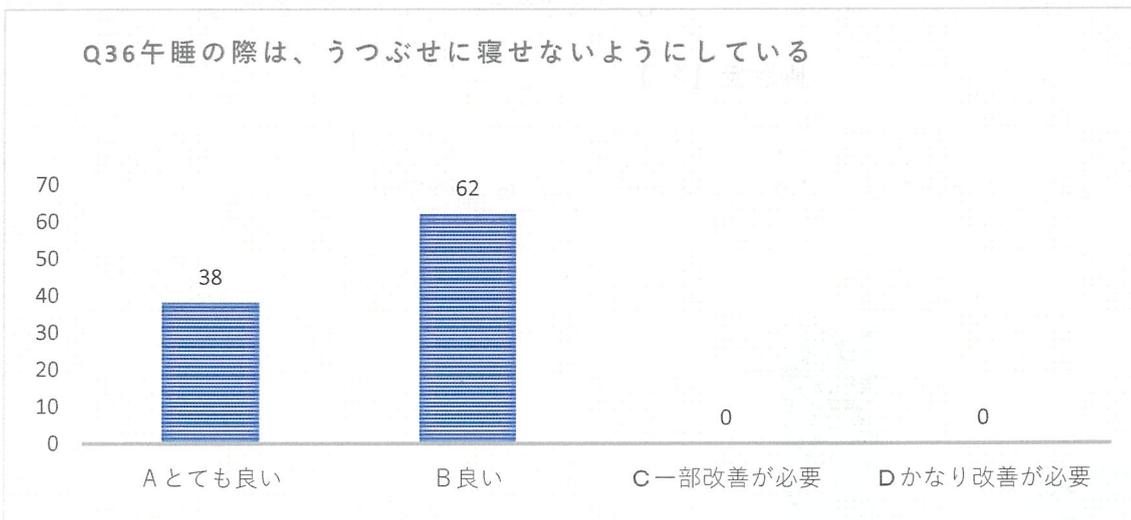
Q34おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っている



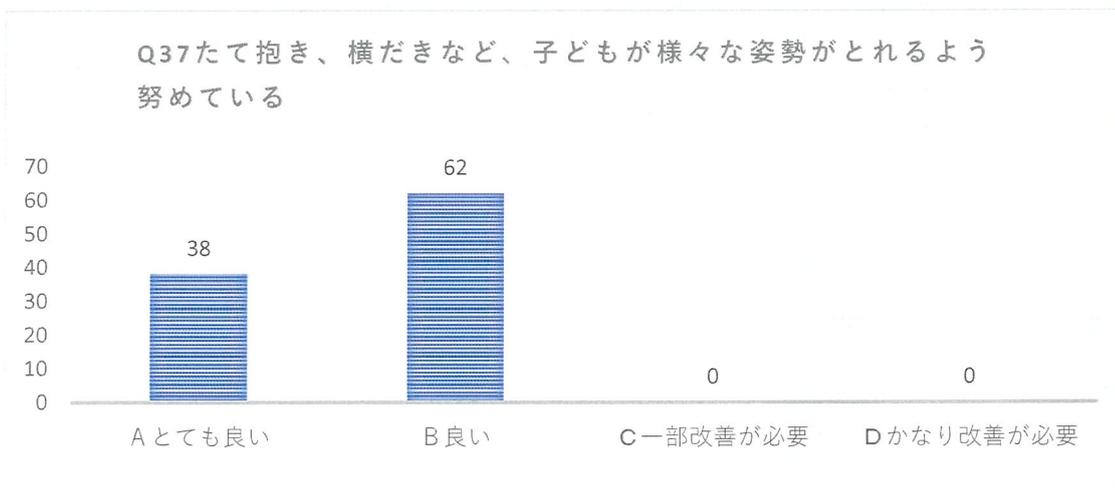
園評価【A】



園評価【A】

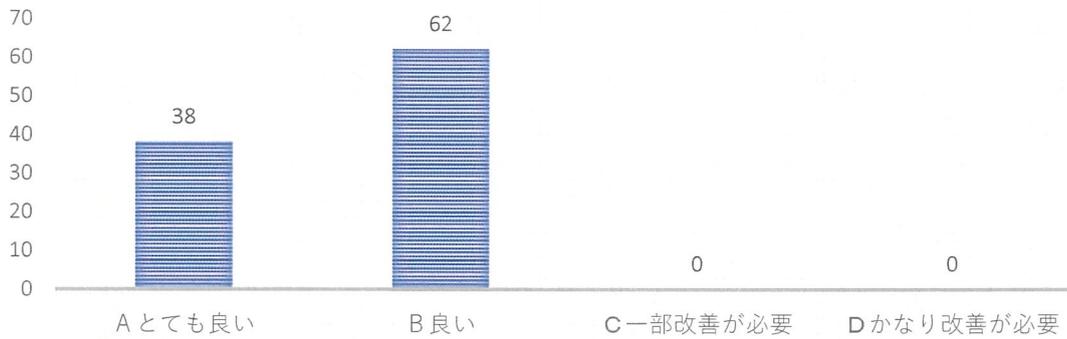


園評価【B】



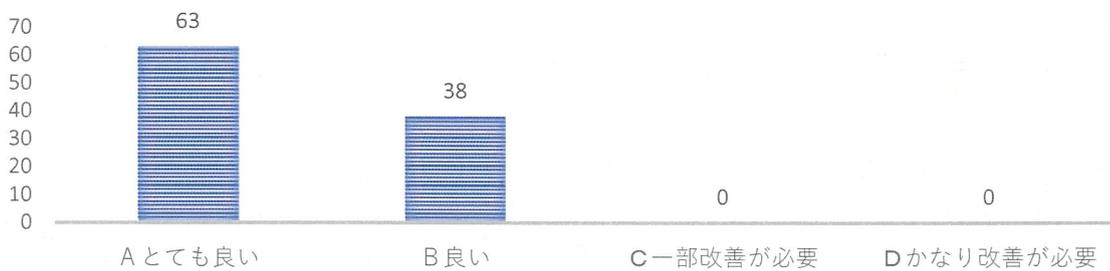
園評価【B】

Q38体を適度に動かす遊びや、リズムを伴ったふれあい遊びを十分にしている



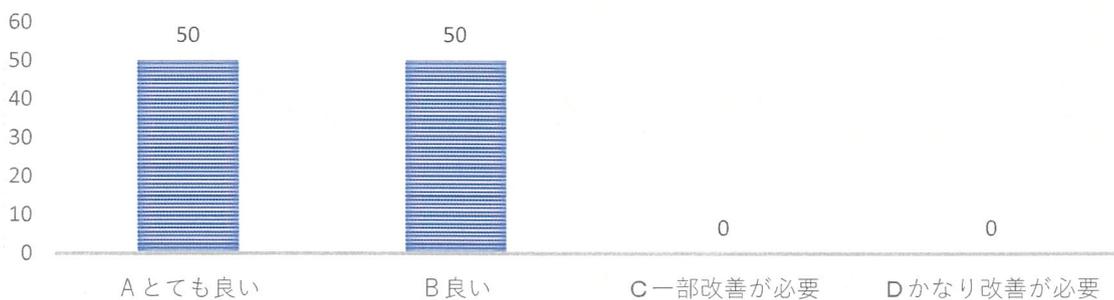
園評価【B】

Q39季節や天候に応じて、戸外遊びを行うなどの機会を設けている



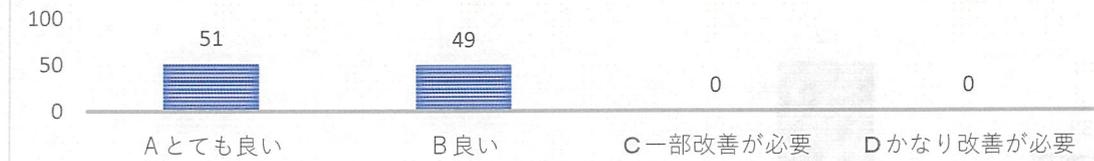
園評価【A】

Q40特定の保育者との継続的な関わりが保てるように配慮している



園評価【A】

【乳児保育】



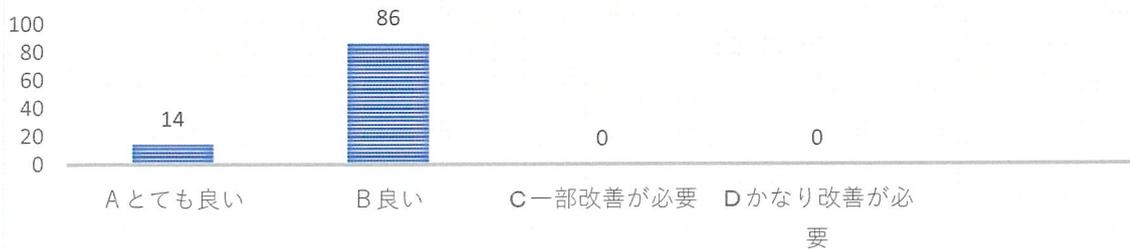
園評価【B】

本年度は4月から0歳児が2名在籍で途中入所で10月現在3名となった。1歳児7名2歳児5名の合計15名で未満児の割合が48%（前年度60%）になっている。担当保育士は定数以上配置しているが、全職員がクラスの垣根を超えてカバーし合いきめ細かい保育に努めている。この経験は保育士にとって良い経験となっている。

離乳食については家庭と連絡を取りながら進めてきたが、その家庭によって離乳食への関心の度合に差があり、対応に苦慮することもあった。しかし、こどもの成長に合わせた対応をするべく、根気よく進めてきた。

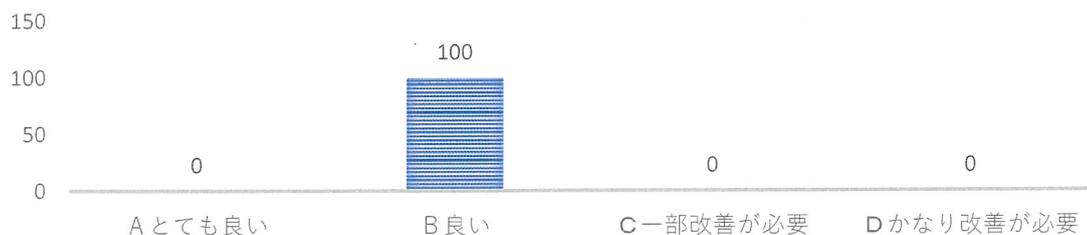
【障がい児保育】

Q41障がいのない子どもも、ある子どもも、お互いの良さを感じるよう心を配っている



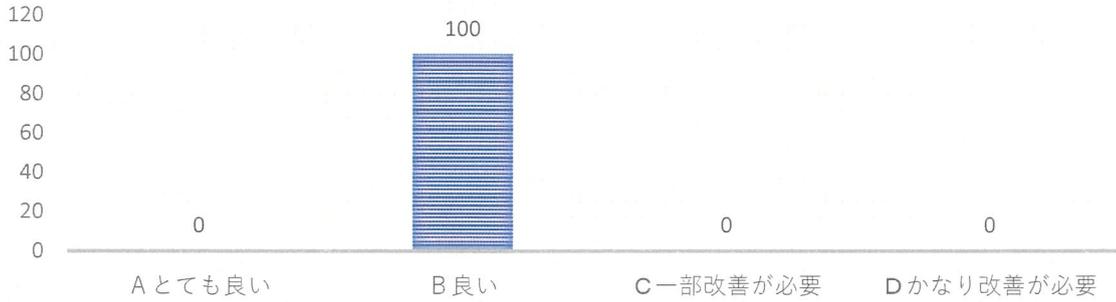
園評価【B】

Q42障がい児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている



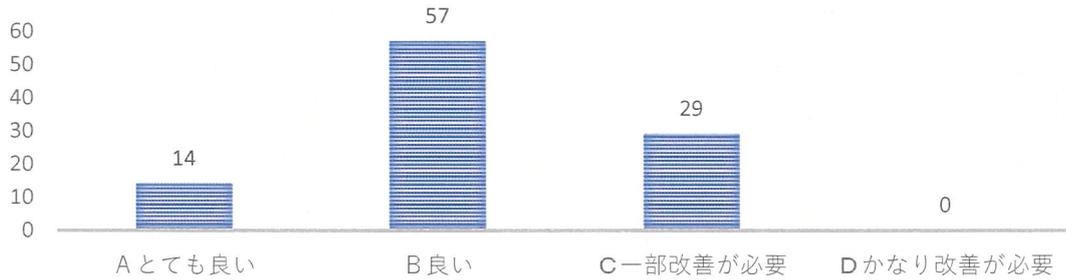
園評価【B】

Q43医療・療育機関などの専門機関から必要に応じ助言を受けている



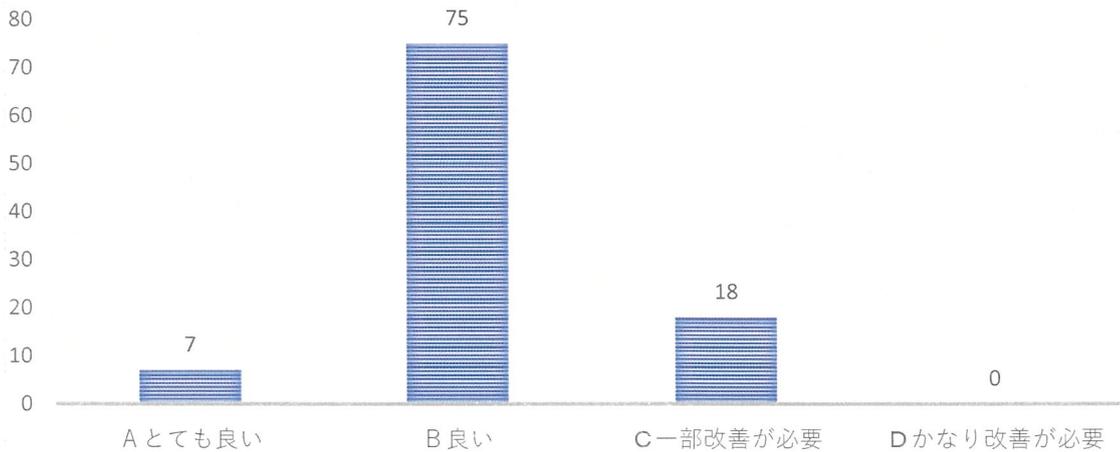
園評価【B】

Q44障がい児の保護者と話し合う場などを日常的に設け、保護者への支援を心がけている



園評価【B】

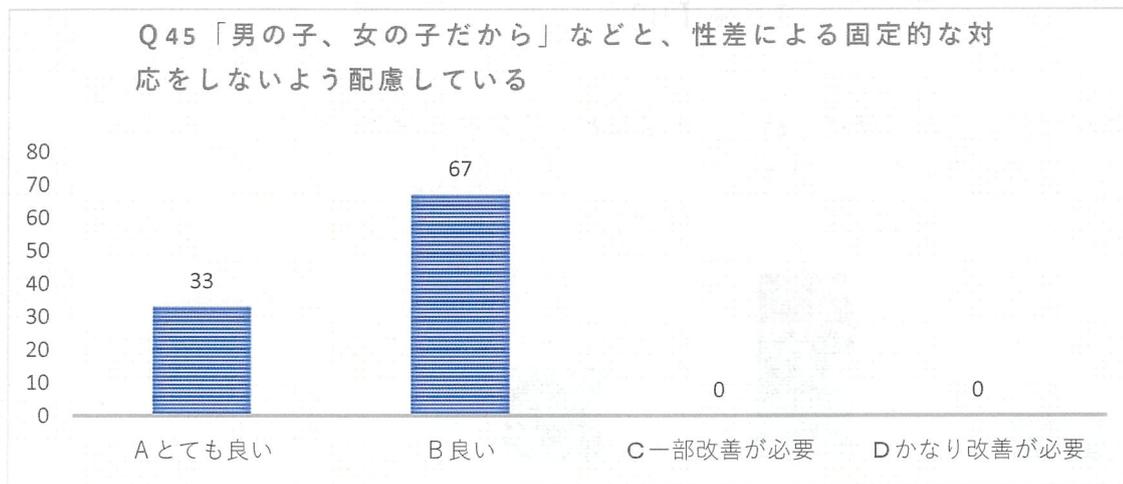
【障がい児保育】



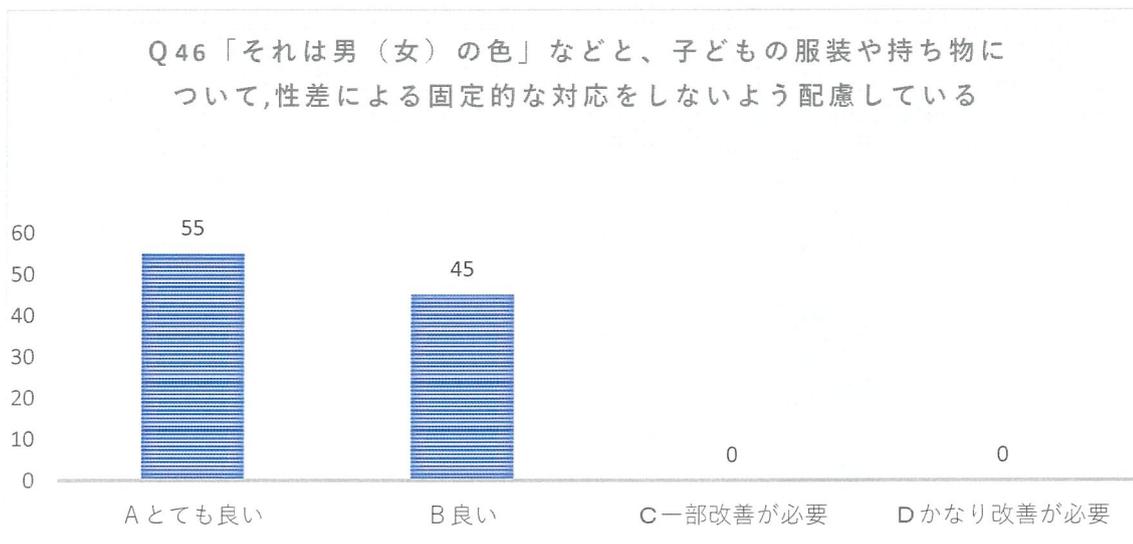
園評価【B】

今年度も障がい児として認定された児童の在籍はなかった。しかし「ちょっと気になるこども」については、保育者同士で情報交換をしたり2人体制で保育にあたる日もあった。しかし担任の負担が大きく、今後の職員体制の検討課題としている。卒園した子どもの小学校での様子についても情報交換を行った。また外部専門機関(栗田支援学校)から講師を招き勉強会を実施した。障がい児保育に関わらず、様々な情報を得て日常保育の中に活用している。

【子どもの人権】

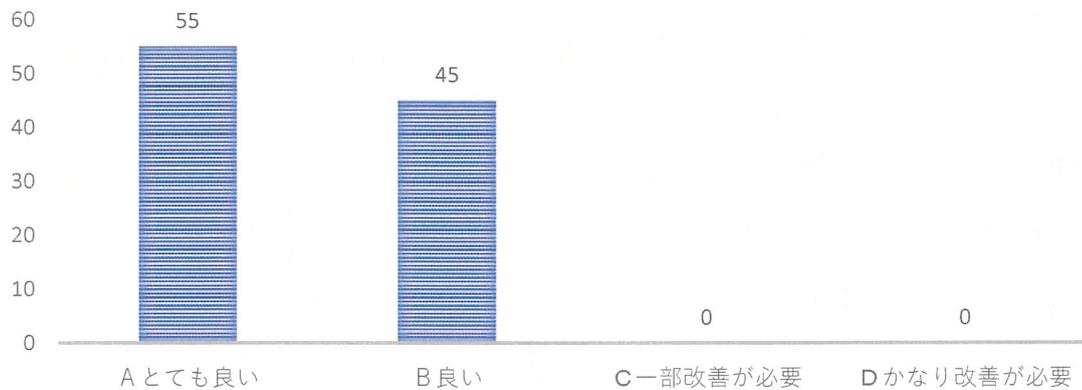


園評価【B】



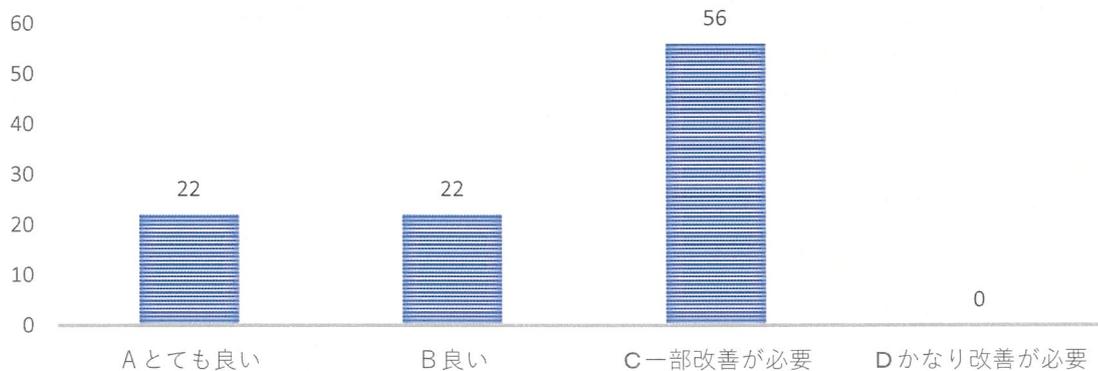
園評価【B】

Q 47 「それは男（女）の仕事」などと、職業について性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している



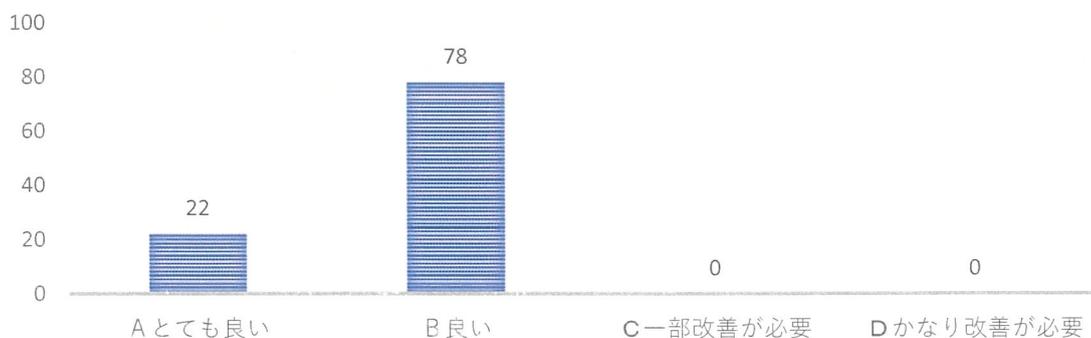
園評価【 A 】

Q 48 子どもの名前を愛称ではなく、名前で呼ぶようにしている



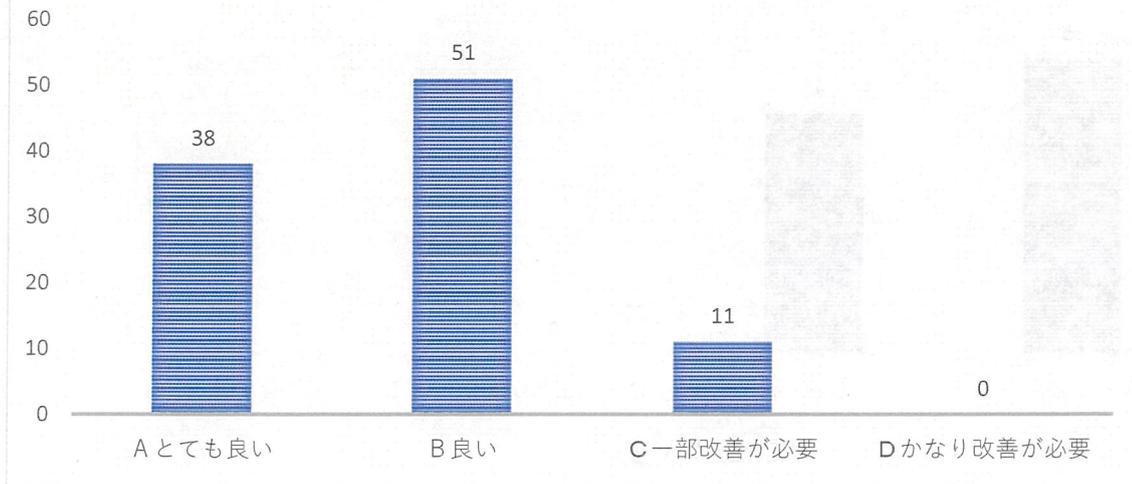
園評価【 C 】

Q 49 不適切な養育や虐待を受けている子どもの早期発見とその予防に努めている



園評価【 B 】

【子どもの人権】



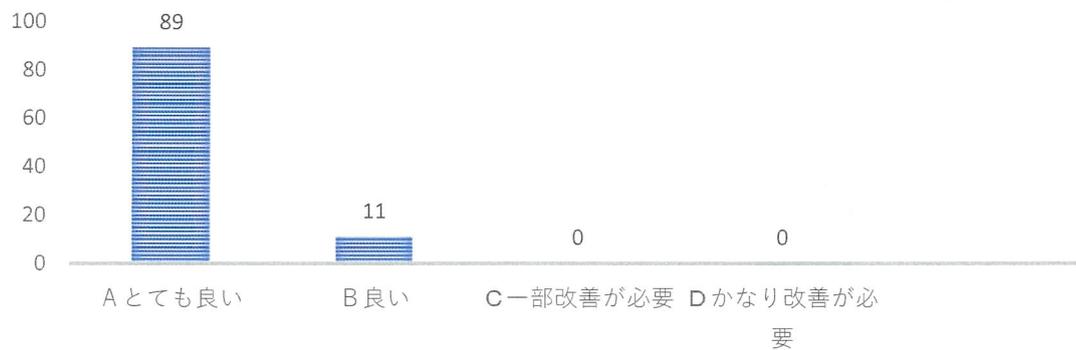
園評価【C】

課題になっている子どもの名前呼び方については、保育者が親しさの表れとは異なることを意識して「子どもの大切な名前」をきちんと呼ぶようにしてきたが、保育者の「慣れ」によってか、Q48のCポイントが高くなっている。職員間で再認識する。

不適切な養育や虐待を受けている子どもの早期発見のため、こども未来センターとは、事例によって4か月ごとに報告・連絡を取り合っている。

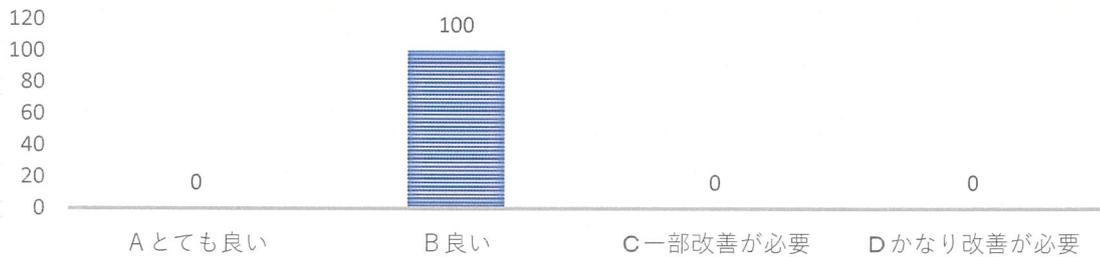
【健康管理・食事】

Q 50 保育中の子どもの体調の変化に基づいて保育をすすめている



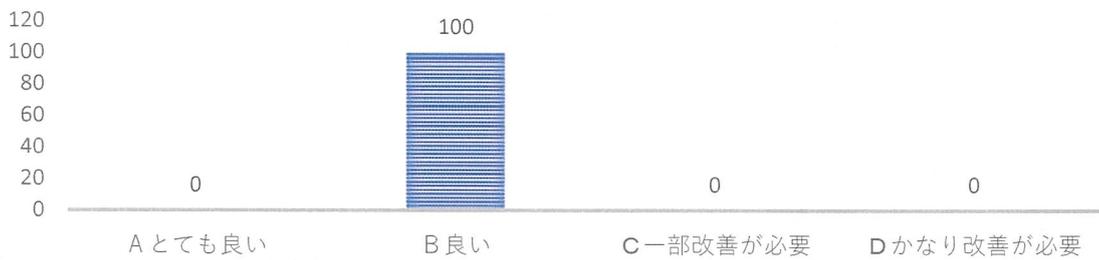
園評価【A】

Q51子どもの健康管理をマニュアルに基づいて実施して、適切な世話ができる。



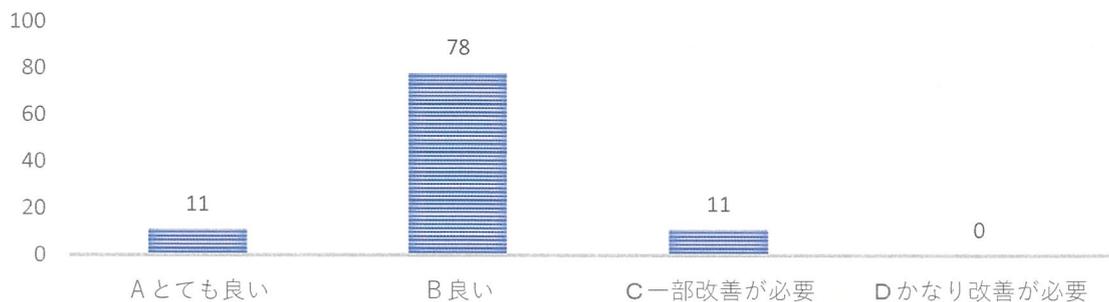
園評価【B】

Q52身長・体重測定から子どもの発達状態を把握して、日々の保育に生かしている。

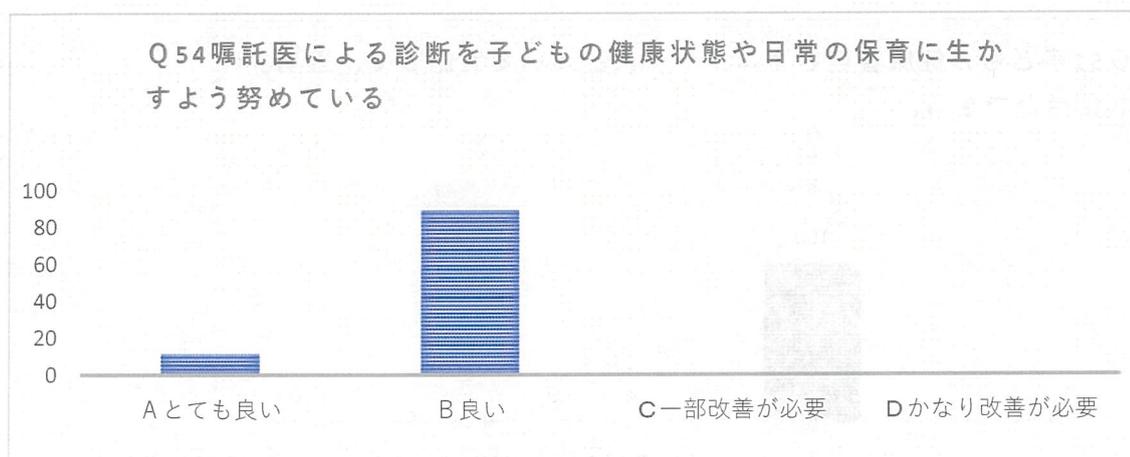


園評価【B】

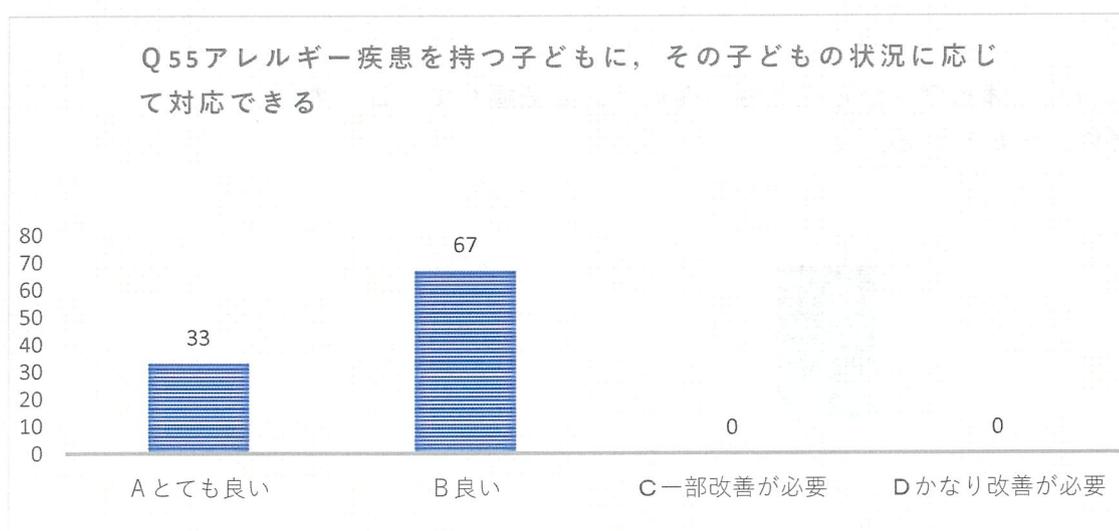
Q53感染症について知識を持ち、マニュアルに基づいて必要な援助ができる。



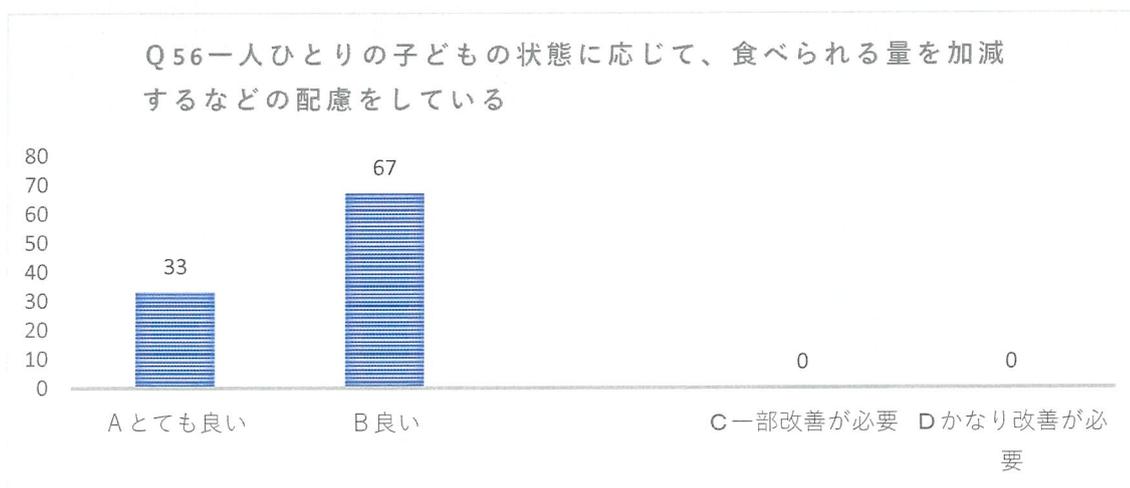
園評価【B】



園評価【B】

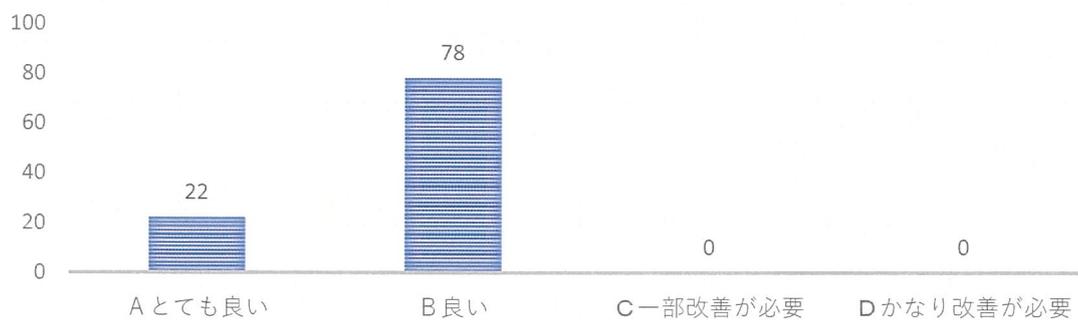


園評価【B】



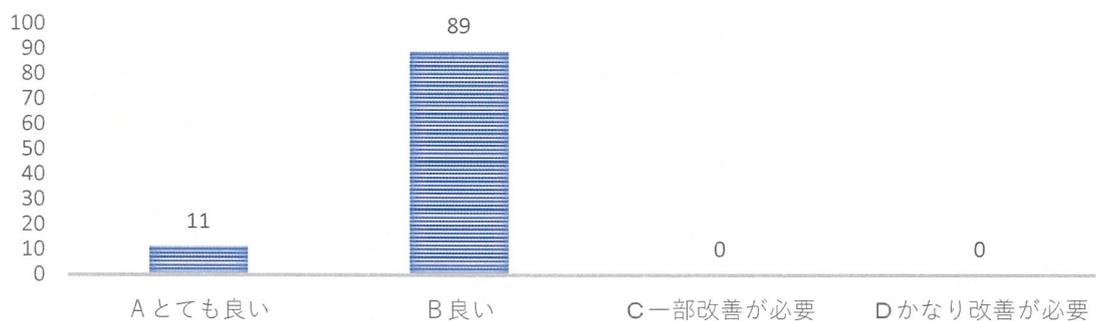
園評価【B】

Q 57偏食を直そうと過度に叱ることがないように配慮している。



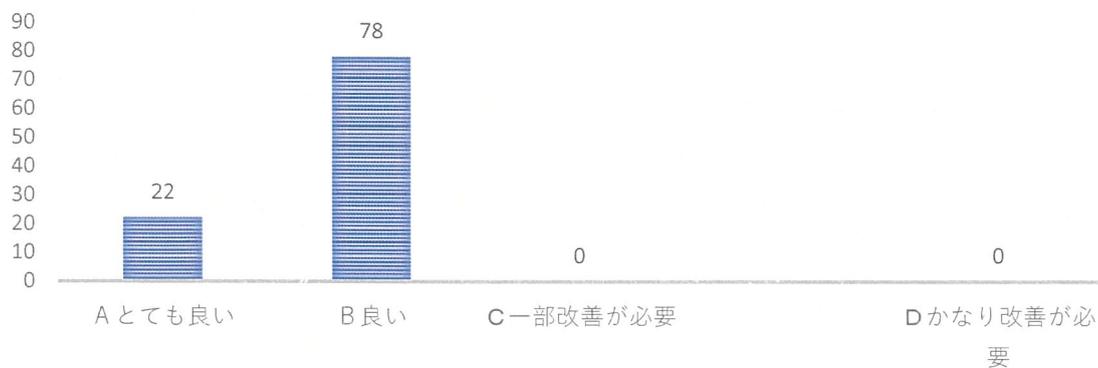
園評価【B】

Q 58子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫している

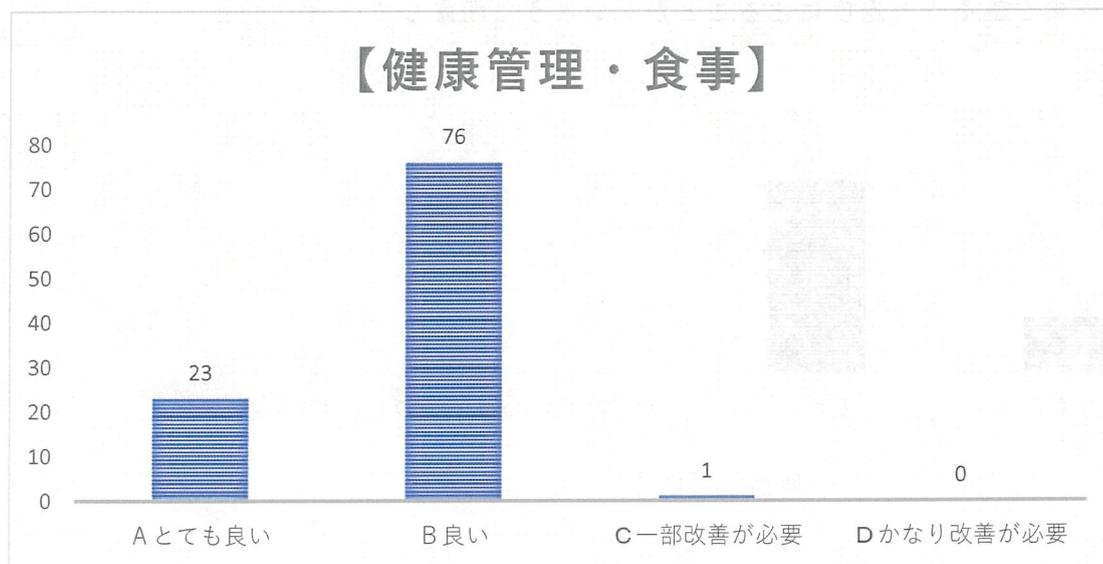


園評価【B】

Q 59子どもが心地よく過ごすことができるよう、換気や採光、温度、湿度に配慮している



園評価【B】



園評価【B】

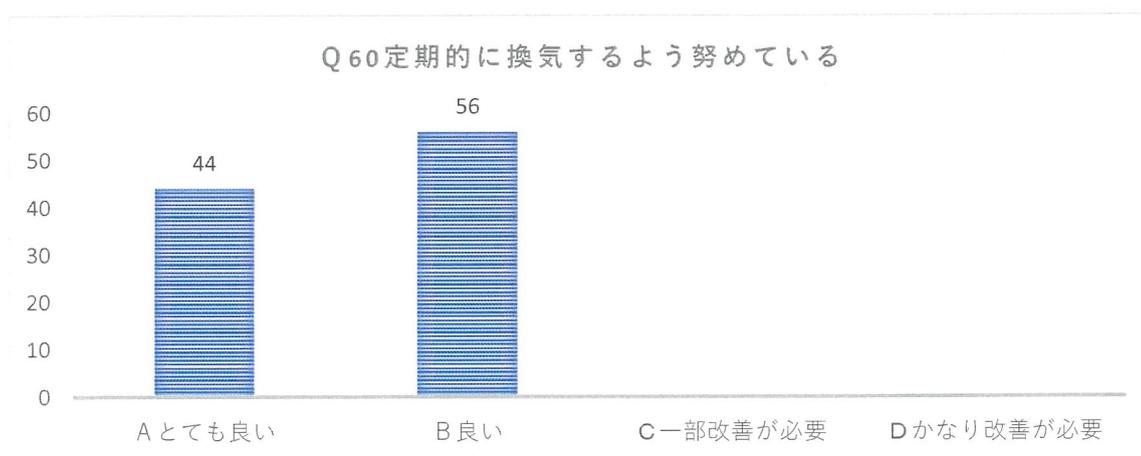
子どもたちの体調の変化には常に気を配り、保護者からの連絡により外遊びができない子への対応もおおむね良好である。

子どもの発育状況について、全職員で話し合い把握するようにした。感染症発生状況については保護者へ周知し感染拡大防止へ理解を求めた。しかし、通院等となると仕事の関係もあってか、対応が遅れる場合も見られた。

食事については概ね良好である。「楽しんで食べる」ことを大切にして子どもたちが「食べたい」と思える雰囲気作りに努めた。「好き嫌い」が極端な子どももいるが、決して無理強することなく見守っている。

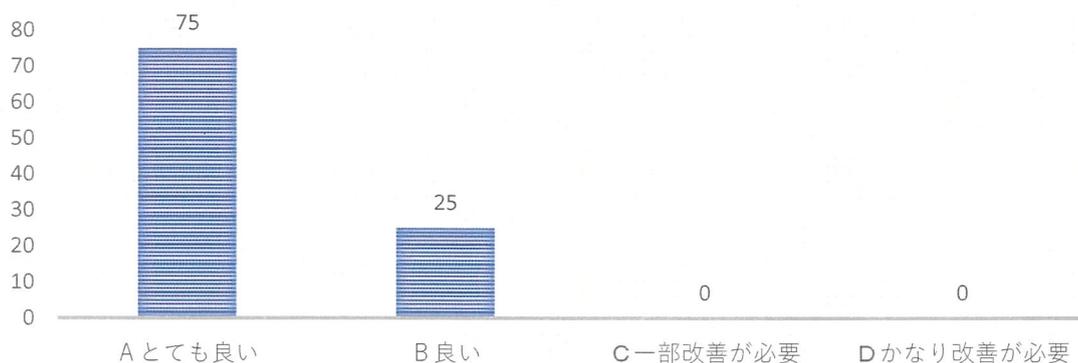
アレルギー疾患を持つ子どもについては医師の指示書に従って対応している。

【保育環境】



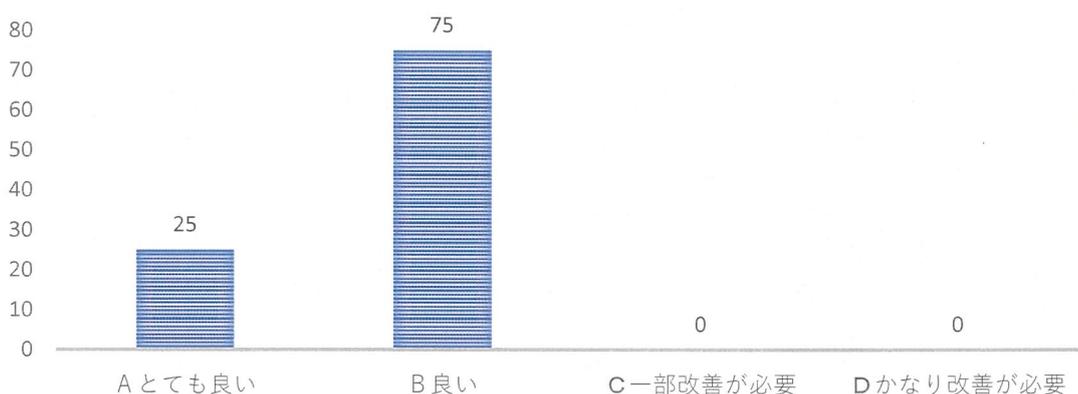
園評価【B】

Q 61適宜手洗い場を清掃し、清潔を保つようにしている



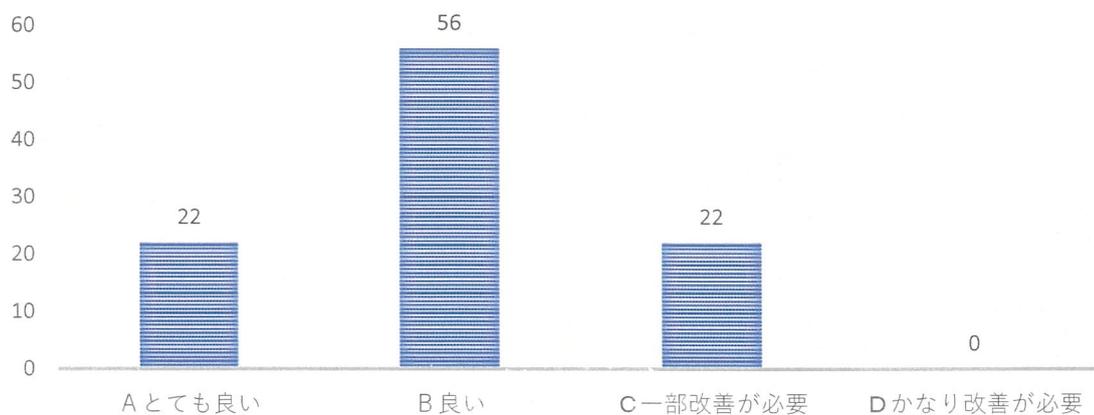
園評価【A】

Q 62玩具・遊具は定期的に清掃するなど衛生に配慮している

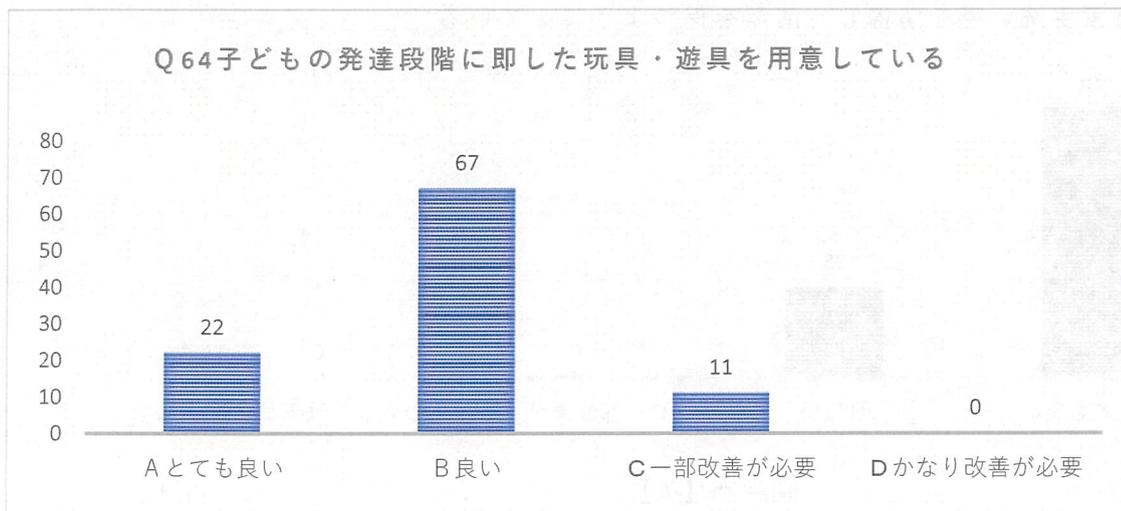


園評価【B】

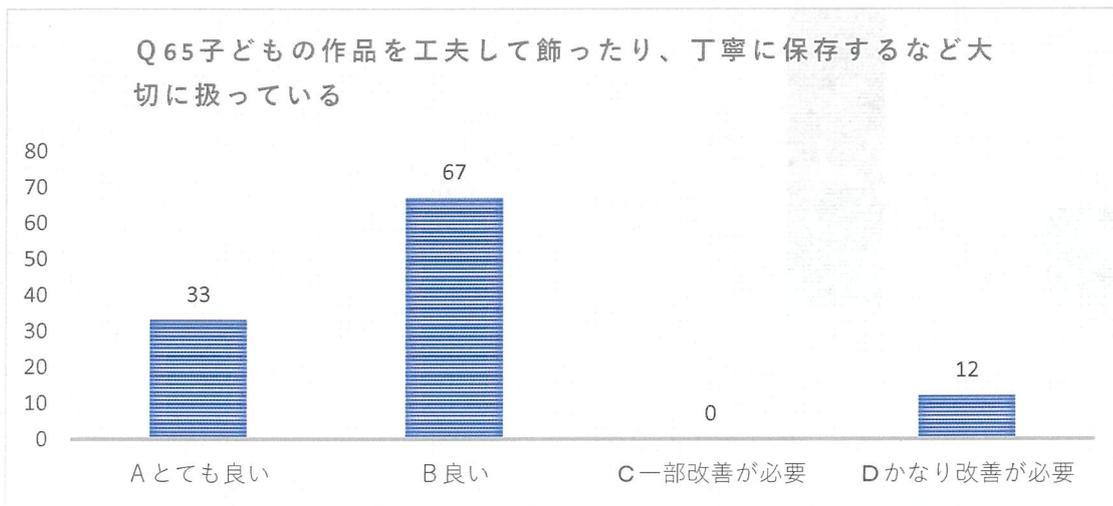
Q 63保育中はあなた自身の声の大きさに配慮している



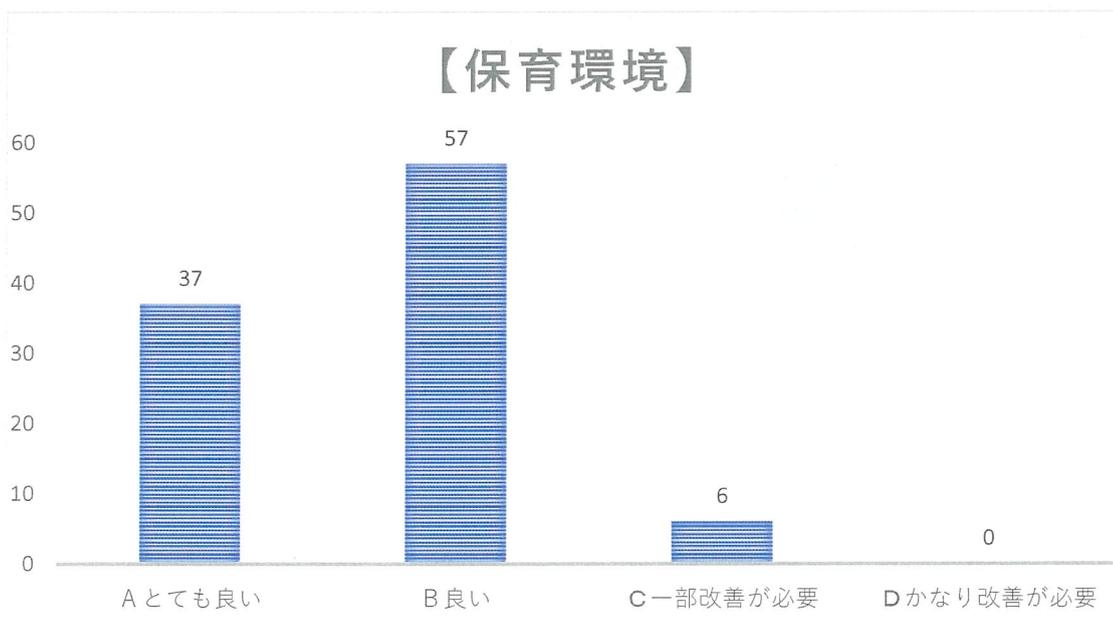
園評価【B】



園評価【B】



園評価【C】



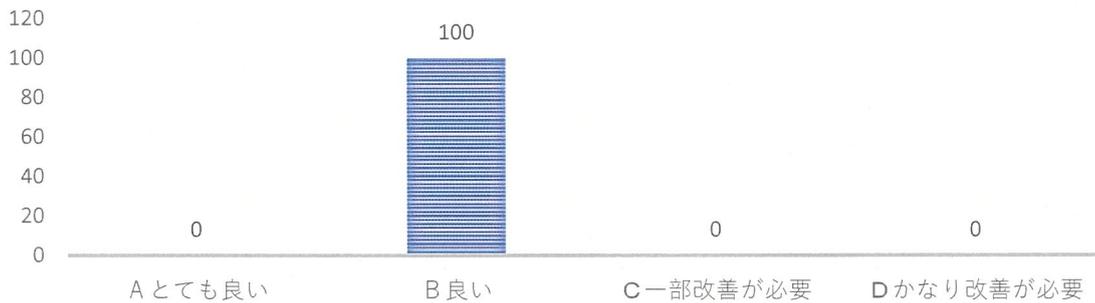
園評価【 B 】

保育環境を整えることは、子どもが安心して遊ぶことができることにもつながることは十分理解しているが、子どもの予想外の行動が怪我につながった事例もあった。現状に対処しながら、保育者一人ひとりが保育環境について意識をもって取り組んでいきたい。

手洗い場やトイレについては、清潔を保つ意味でも保育者が気付き、適切に対応ができた。夏場は子どもトイレが暑くなることから、隣室の窓を開放しエアコンの冷気を回すように対処した。

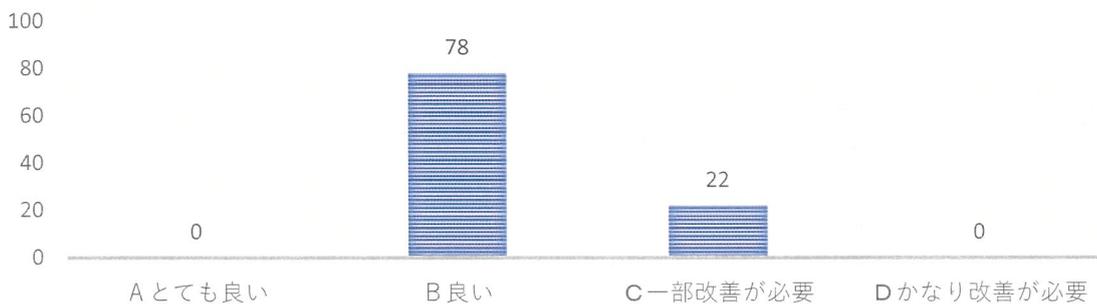
【その他】

Q 66 園の保育理念や基本方針を日々の保育に生かしている

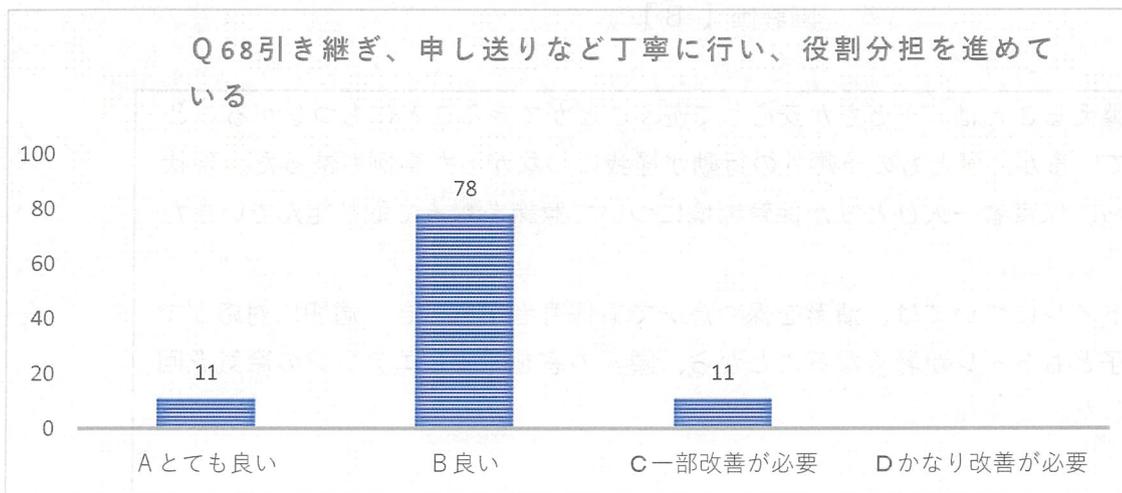


園評価【 B 】

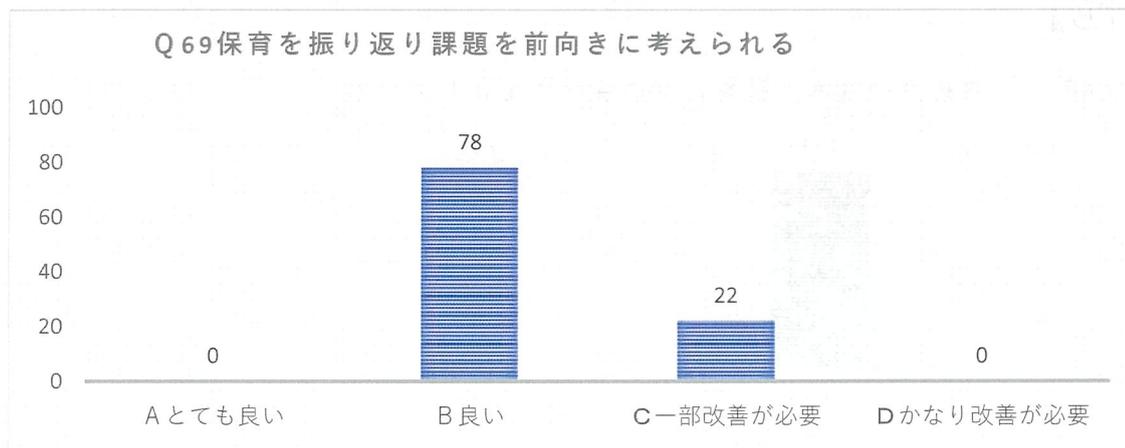
Q 67 自分の実践の内容を同僚や上司にわかりやすく説明することができる



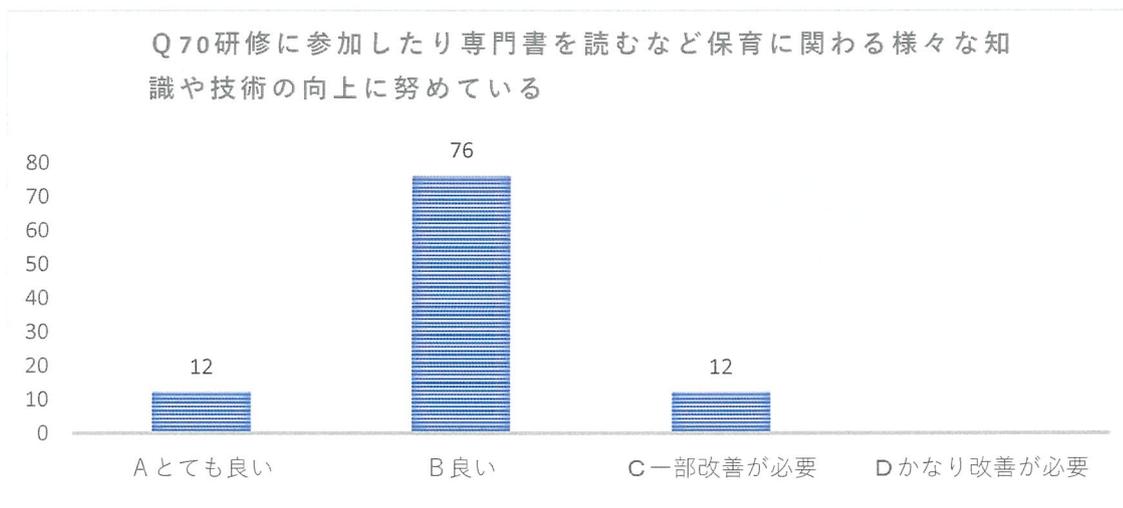
園評価【 B 】



園評価【B】

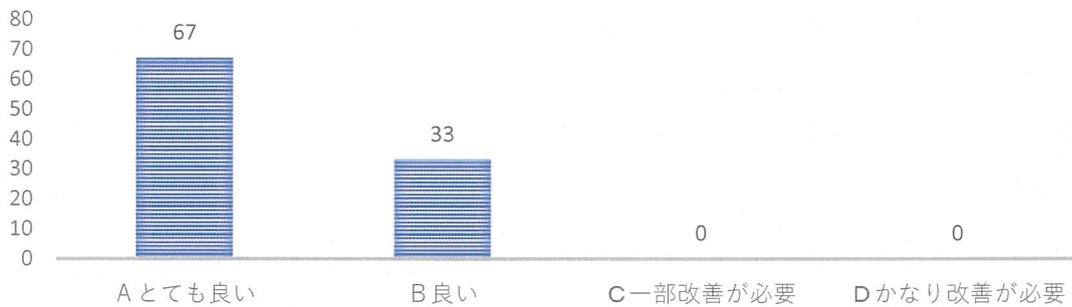


園評価【B】



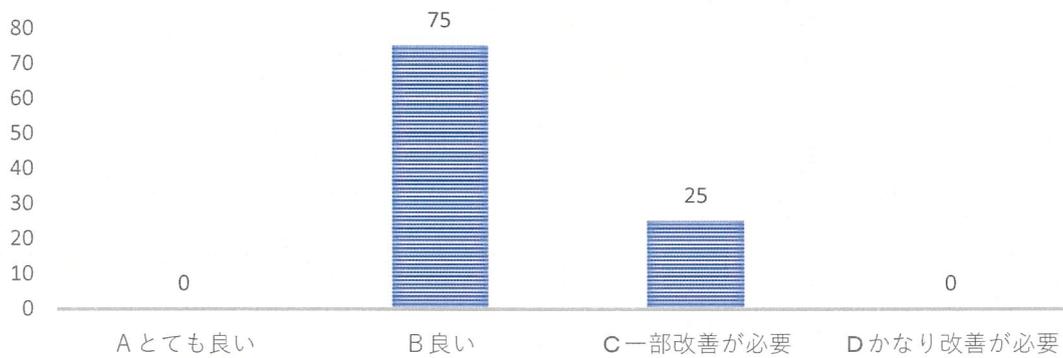
園評価【B】

Q71職業上知りえた情報を、自分の家族や友人にでも話さないようにしている



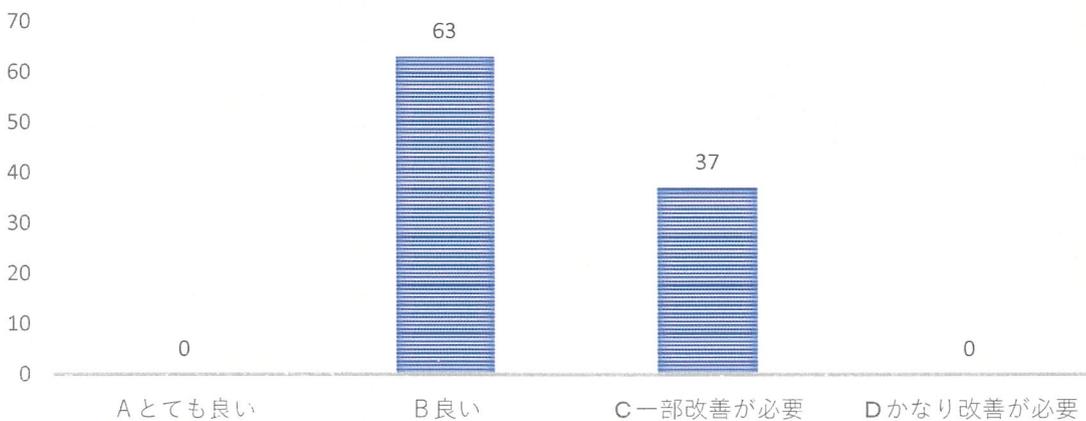
園評価【A】

Q72保護者との信頼関係がありがた確なアドバイスができる

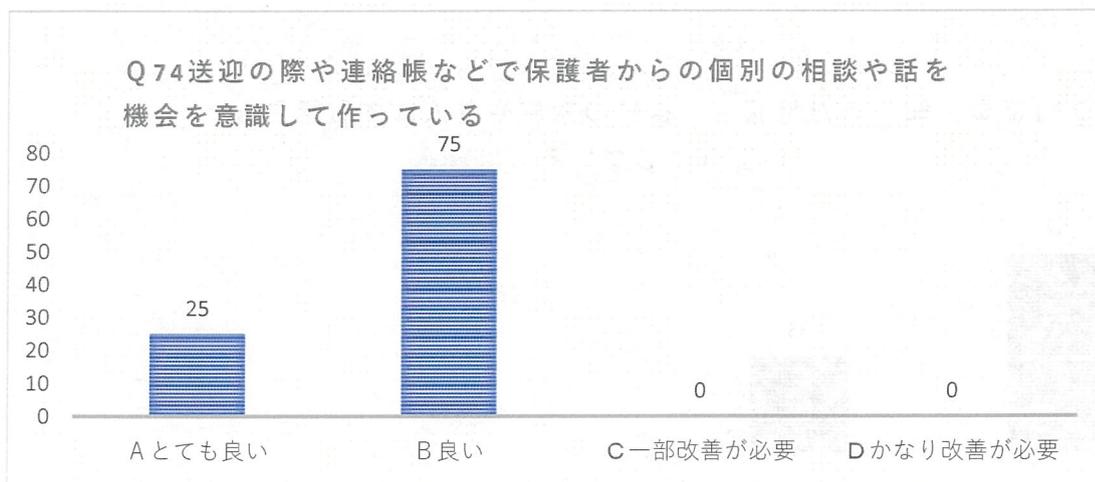


園評価【C】

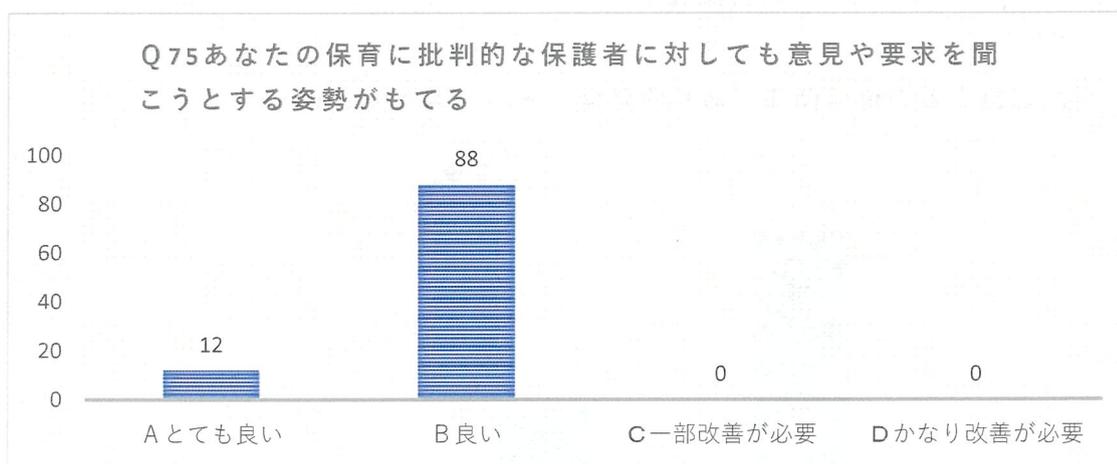
Q73保育理念・保育目標・保育方針を保護者に説明できる



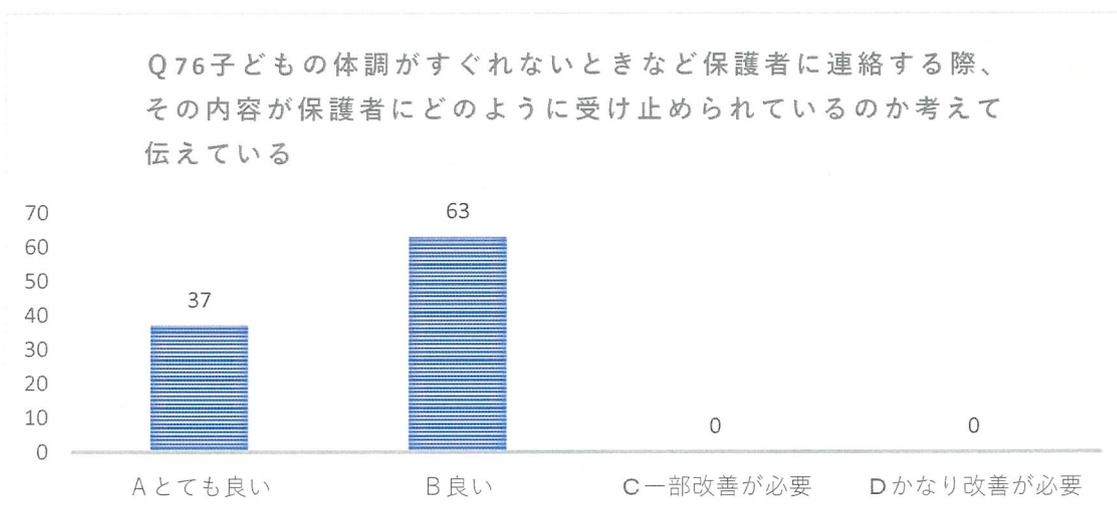
園評価【C】



園評価【B】

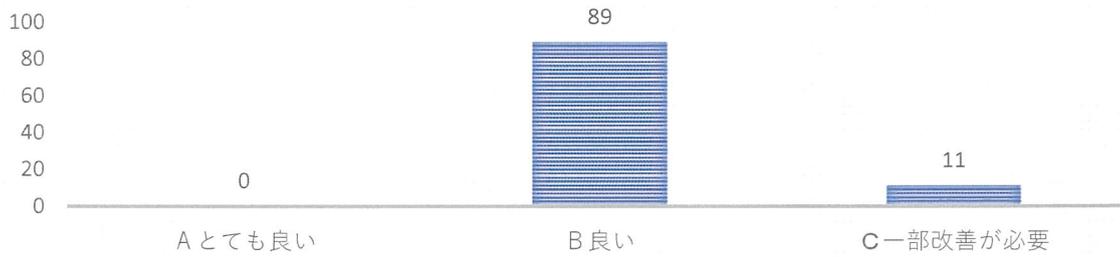


園評価【B】



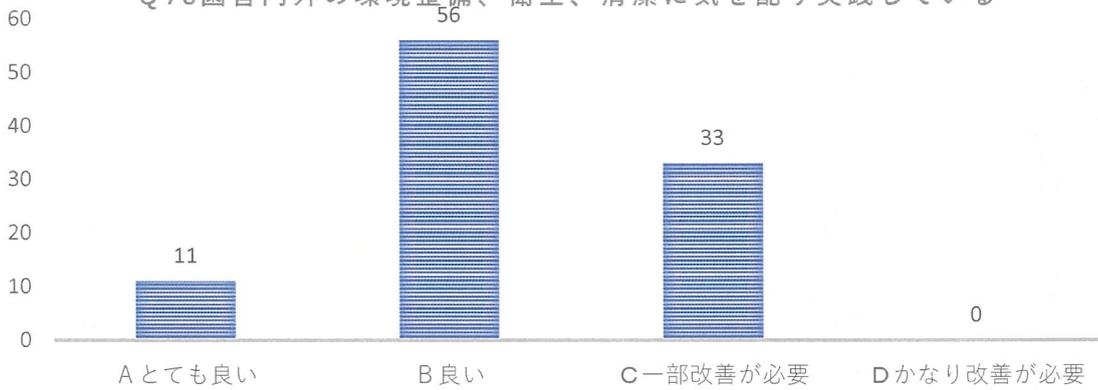
園評価【B】

Q 77 火災、地震、不審者の侵入の際、きちんと対応する自信がある



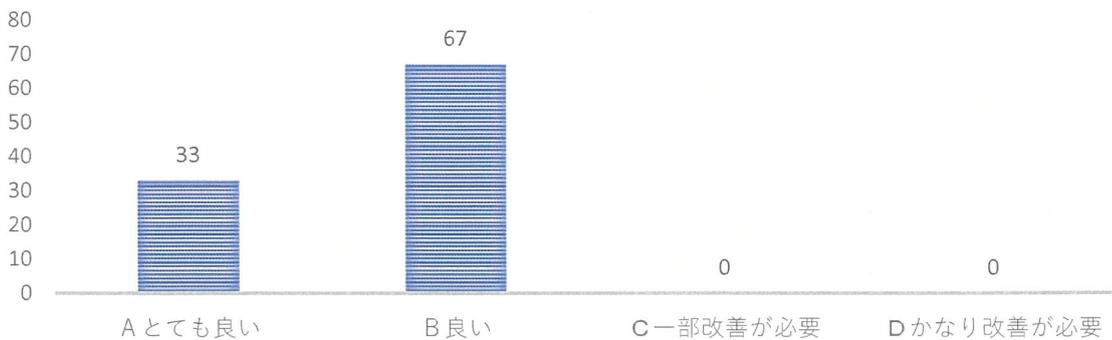
園評価【B】

Q 78 園舎内外の環境整備、衛生、清潔に気を配り実践している

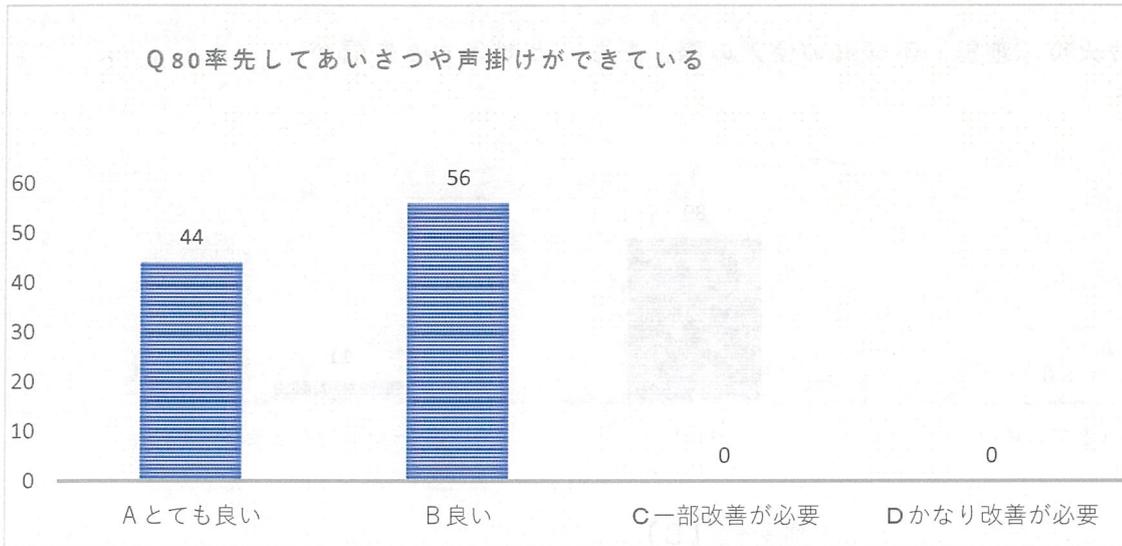


園評価【B】

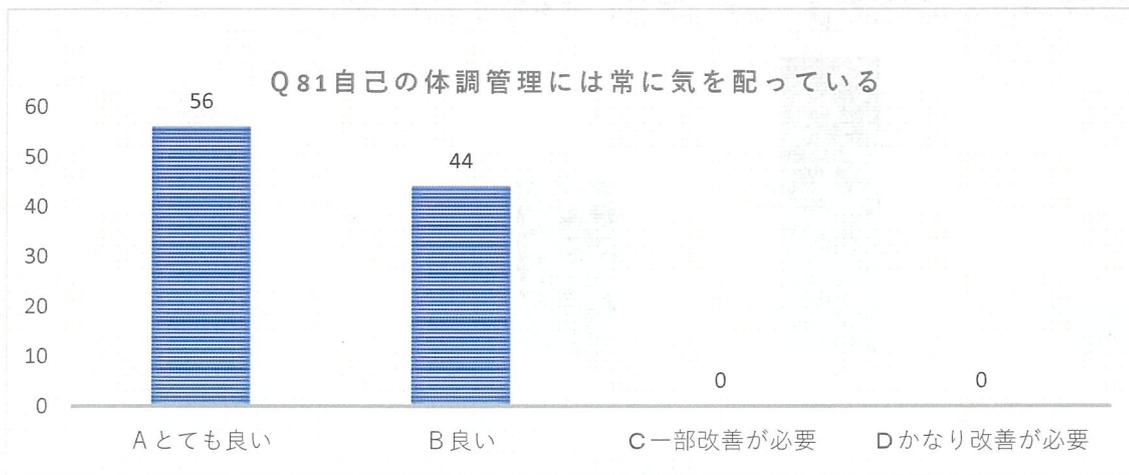
Q 79 報告、連絡、相談を適切に行っている



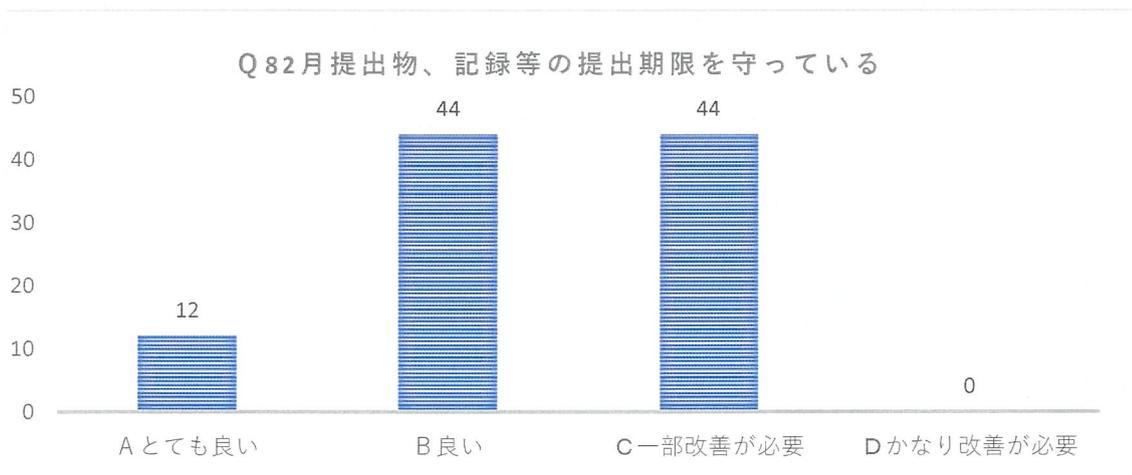
園評価【B】



園評価【B】

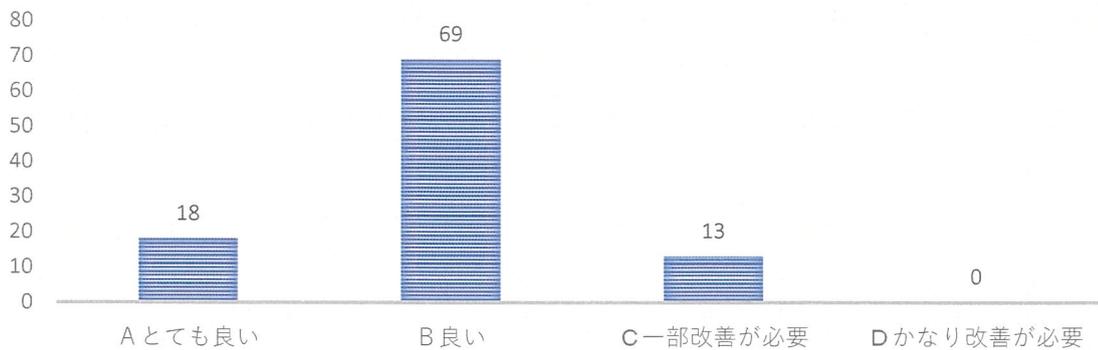


園評価【B】



園評価【B】

【その他】



園評価【B】

保育者自身がスキルを高め保育所保育の内容を理解するためにより一層の自己研鑽を期待する。また昨年度保護者対応についてもQ75でC評価が多かったが今年度B評価が多かった。保護者からの意見や要求を聞くことができるようになったことは、保護者との信頼関係の深まりと保育者の仕事に対する自信の表れではないか、と判断する。

災害時対応については、計画的に避難訓練等を実施し、保育者はその都度緊張感をもって臨んでいる。いざという時には、職員一丸となり、安全確保に努めたい。

自己評価を実施して

全体的に自己評価と園評価の差は昨年度と同様にさほど大きくはないもののC評価は減少している。今一度、保育理念・保育方針・保育目標・全体的な計画を自分のものとして実践し、自分たちの日々の保育を保護者にわかりやすく説明していくことが保護者の信頼の礎となると考える。そのためにもさらに職員一人ひとりの自覚、また学びが更に求められる。

現在、キャリアアップ研修を受講して自身のスキルアップを目指している。日々の業務の中で学びを継続することは容易ではないが、各々理解し・協力して園全体のスキルアップを目指し、「子どもの最善の利益」を守っていく保育集団でありたい。

定員30名、職員13名の小さな「はねかわ保育所」ではあるが、一人ひとり（子ども・職員）がのびのびと大きく成長していく姿を期待している。

